

授業概要 保育科

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																										
文章表現	演習	2	必修	必修	必修	1年・前期	先 川 尚 美 手 塚 早 苗																																										
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。																																																
授 業 の 目的・概要	学生時代及び社会生活において、小論文やレポート、報告、伝達、記録など、自分の考えや、伝えるべき事柄を的確な文章によって表現することが求められる。授業では、基本的な日本語の表現技術、伝える力を身に付けることを目的とし、実践的な練習を通して、文の構造、分かりやすく明快な文章を書く技術や、ビジネス文書、手紙などの基本的な書き方を学ぶ。（先川） 社会人になったとき、伝えたい情報、知識、自分の思いなどを正確に他者に伝えなければならない場面が、どんどん増えてくる。この時、敬語表現を含め、ただのおしゃべりを超えた心構え、準備、技術が求められる。他者に分かりやすい文章の読み方、自己紹介による自己表現、これらのトレーニングを通して、よりよく「伝える」を考える。（手塚）																																																
到 達 目 標	① 基本的な日本語の表現技術、伝える力を身に付ける。 ② 実践的な練習を通して文の構造、分かりやすく明快な文章、ビジネス文書、手紙などの基本的な書き方を学ぶ。 ③ 敬語表現を含めた心構え、分かりやすい文章力を身に付ける。 ④ 自己紹介による自己表現、これらのトレーニングを通して、よりよく「伝える」を考える。																																																
授業の進め方	様々な資料、例文などを題材に、日本語の文章表現を多角的に学ぶ。課題に則した文章を書くという実践を通し、日本語の文章表現力を養う。（先川） テキストプリント配付し、発音・発声・読み方を実践中心に学ぶ。また、短いスピーチを考え、互いに発表し、聴き合うことでプレゼン技術の向上を目指す。自ら進んで発言・発表する姿勢を強く求めます。（手塚）																																																
時間外学修学修上の助言	自ら進んで発言・発表をする姿勢を求める。																																																
授 業 計 画	（先川） <table><tr><td>第 1 回</td><td>文章を書く目的</td><td>：思考を文章化する、簡潔な表現</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>文の構造</td><td>：文章における主語と述語の関係</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>敬語表現Ⅰ</td><td>：敬語の特徴、尊敬語と謙譲語</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>敬語表現Ⅱ</td><td>：丁寧語と美化語、敬意表現、敬語の誤った使い方</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>文章の書き方Ⅰ</td><td>：手紙、ビジネス文書の書き方</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>文章の書き方Ⅱ</td><td>：レポート、小論文の書き方</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>履歴書の書き方</td><td>：履歴書、エントリーシート、メールの書き方</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr></table> （手塚） <table><tr><td>第 9 回</td><td>読むⅠ</td><td>：その基礎－呼吸法、発音、アクセント他</td></tr><tr><td>第10回</td><td>読むⅡ</td><td>：その実践－聞き手に、わかりやすく読む</td></tr><tr><td>第11回</td><td>絵本の読み聞かせ</td><td></td></tr><tr><td>第12回～第13回</td><td>話すⅠ</td><td>：その基礎－短いスピーチ</td></tr><tr><td>第14回</td><td>話すⅡ</td><td>：場面に応じた話し方を考える。実習先、就職面接で</td></tr><tr><td>第15回</td><td>まとめ</td><td></td></tr></table>							第 1 回	文章を書く目的	：思考を文章化する、簡潔な表現	第 2 回	文の構造	：文章における主語と述語の関係	第 3 回	敬語表現Ⅰ	：敬語の特徴、尊敬語と謙譲語	第 4 回	敬語表現Ⅱ	：丁寧語と美化語、敬意表現、敬語の誤った使い方	第 5 回	文章の書き方Ⅰ	：手紙、ビジネス文書の書き方	第 6 回	文章の書き方Ⅱ	：レポート、小論文の書き方	第 7 回	履歴書の書き方	：履歴書、エントリーシート、メールの書き方	第 8 回	まとめ		第 9 回	読むⅠ	：その基礎－呼吸法、発音、アクセント他	第10回	読むⅡ	：その実践－聞き手に、わかりやすく読む	第11回	絵本の読み聞かせ		第12回～第13回	話すⅠ	：その基礎－短いスピーチ	第14回	話すⅡ	：場面に応じた話し方を考える。実習先、就職面接で	第15回	まとめ	
第 1 回	文章を書く目的	：思考を文章化する、簡潔な表現																																															
第 2 回	文の構造	：文章における主語と述語の関係																																															
第 3 回	敬語表現Ⅰ	：敬語の特徴、尊敬語と謙譲語																																															
第 4 回	敬語表現Ⅱ	：丁寧語と美化語、敬意表現、敬語の誤った使い方																																															
第 5 回	文章の書き方Ⅰ	：手紙、ビジネス文書の書き方																																															
第 6 回	文章の書き方Ⅱ	：レポート、小論文の書き方																																															
第 7 回	履歴書の書き方	：履歴書、エントリーシート、メールの書き方																																															
第 8 回	まとめ																																																
第 9 回	読むⅠ	：その基礎－呼吸法、発音、アクセント他																																															
第10回	読むⅡ	：その実践－聞き手に、わかりやすく読む																																															
第11回	絵本の読み聞かせ																																																
第12回～第13回	話すⅠ	：その基礎－短いスピーチ																																															
第14回	話すⅡ	：場面に応じた話し方を考える。実習先、就職面接で																																															
第15回	まとめ																																																
評 価 方 法	定期試験（90%）、平常点（10%）、提出レポート、平素の受講態度などを加味する。（先川） 定期試験なし、平常点と提出物で評価する。（手塚）																																																
教 科 書	講義の中で適宜紹介する。																																																
参 考 書 参考資料等	「問題な日本語」北原保雄編（大修館書店）、「文章力の基本」阿部紘久著（日本実業出版社） 「みんなの日本語事典」中山緑朗著（明治書院）																																																
備 考	提出物の期限厳守																																																

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
心理学の世界	講義	2	選択	選択	選択	1年・後期	陳 省 仁
受講する上での注意事項	保育関係の仕事に限らず、広く活用できるよう、楽しみながら積極的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	① 現代社会に生きるため、自分や周りの人間の理解と関係の維持、又は、専門分野の仕事に心理学の知識が参考になると考える。本講義は、人間の心と行動を理解しようとして、欧米で発達し展開されてきた学問を紹介することが主の目的である。 ② 講義は、具体的に3つの内容で構成される。(1)心理学の概念・用語 (2)心理学の方法 (3)心理学者(人と主な概念)を中心にし、授業を聴きながらこれらについてノートを取ることが学修にとって重要である。						
到 達 目 標	① 約50個の代表的心理学の概念・用語の理解と習熟 ② 心理学発展の歴史に沿って出現した主な方法の理解 ③ 主な心理学者約20人それぞれの代表的な概念についての認識						
授業の進め方	講義を①「心理学と心理学者」、②「認知と行動」、③「関係と発達」、④「心理学と社会」の4つの単元に分けて、それぞれの単元を3つの主要内容で構成する。授業ノートの提出を求め、学修の重要な単元毎に復習・質問・点検の授業を実施する。						
時間外学修学修上の助言	1 授業後次週の授業まで、必ず自分の言葉で講義の要点を5点でまとめる作業を行う。1点につき50～60文字ほどの文で構成すること。 2 原則として、講義の第4、8、12週目において、1で準備した材料を用いて、グループ発表形式で前3週間の学修内容を復習する。 3 復習の発表は全員参加できるように工夫する。評価は発表グループ以外の受講者による。評価の平均点はグループの得点になり、最終成績の10%とする。 ただし、受講者人数の関係上グループ分けの討論が実施できないこともある。						
授 業 計 画	第1回 心理学と心理学者 a : 心理学の始まりと代表的心理学者 第2回 心理学と心理学者 b : 心理学の視点と方法 第3回 心理学と心理学者 c : 心理学者の仕事 第4回 復習・質問・点検 1 : 「心理学と心理学者」 第5回 認知と行動 a : 注意は認知機能の基礎である 第6回 認知と行動 b : 記憶は積極的再構成である 第7回 認知と行動 c : 情動は行動の原動力 第8回 復習・質問・点検 2 : 「認知と行動」 第9回 関係と発達 a : 新生児と母親 第10回 関係と発達 b : 乳幼児期の発達 第11回 関係と発達 c : 子どもの発達と養育者の役割 第12回 復習・質問・点検 3 : 「関係と発達」 第13回 心理学と社会 a : 子育ての文化 第14回 心理学と社会 b : 養育性形成と教育 第15回 心理学と社会 c : 総括						
評 価 方 法	定期試験(90%)、平常点(10%)毎回のノート提出と評価。						
教 科 書	使用しない。資料を授業時に配付する。						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	毎回授業後、ノートの提出を求める。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
くらしと憲法	講義	2	選択	必修	必修	2年・前期	高 野 俊太郎
受講する上での注意事項	社会人としての基本的な法規範についてである。 将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	憲法とは国家権力の濫用を抑制し、国民の権利・自由を守る国家の基本法である。日本国憲法では、自由権・平等権などの人権規定を定めて、国民に当然保障されるべき権利・自由を高らかに宣言するとともに、それを脅かす国家権力の濫用が行われないような統治機構の仕組みについて規定している。本講義では、主に国民に保障されている自由権・平等権・社会権などの人権規定につき概説する。その際、実際概要に憲法違反を争って裁判となった事例・憲法が日常生活に関係する事例などを挙げて、その問題点を学生自身が探求することで、憲法の理念とその重要性につき理解を深めることを目的とする。 また、憲法以外にも、生活を送る上で必要となる法的知識について、具体的事例をあげて紹介、解説を行う。						
到達目標	① 憲法学の基本的な考え方を理解させる。 ② 法律全般に対する理解を深め、今後の社会生活の一助とさせる。						
授業の進め方	毎回必要なレジュメを配付の上、講義形式で授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	世の中で、日々発生する様々な事件に関心を持ち、法的観点からどのような解決が可能であるのかを検討すること。						
授 業 計 画	第1回 憲法の必要性和日本の法体系における憲法の位置付け 第2回 基本的人権総論（人権を保障される者の範囲） 第3回 基本的人権総論（人権保障の限界） 第4回 法の下での平等総説と実際に平等権の侵害が問題となった事例の考察 第5回 精神的自由権総説、思想良心の自由、学問の自由、表現の自由 第6回 報道の自由及び取材の自由と他の利益との調整 第7回 新しい人権、プライバシー権、名誉権 第8回 信教の自由と政教分離原則 第9回 経済的自由権総説、職業選択の自由、居住移転の自由 第10回 財産権 第11回 社会権総説、生存権、環境権 第12回 教育を受ける権利 第13回 勤労の権利及び義務 第14回 国民の権利・自由を守るための統治機構の仕組み（三権分立） 第15回 憲法の重要性についての総括など						
評価方法	定期試験（100％）						
教科書	使用しない。プリントを適宜配付する。						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
文字とことば	演習	2	選択	選択	選択	1年・前期	南 部 正 人
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	① 文字とことばの役割について学ぶ。 ② コミュニケーション能力の意義について学ぶ。 ③ 文字とことばの変遷について学ぶ。 ④ 文字とことばの正しい表現や使用について学ぶ。 ⑤ 家庭等への連絡のあり方について学ぶ。						
到 達 目 標	① 文字とことばの役割を理解する。 ② 丁寧な文字と適切な表現で、簡潔な文章を作成する。 ③ 他人の考えを理解し、適切に対応ができる。 ④ 自分の考えを、読み手を思いやりながら伝える。						
授業の進め方	各回毎にテーマとなる課題を決めて文章作成を行う。						
時 間 外 学 修 学 修 上 の 助 言	留意事項、各回ともに共通のテーマは「丁寧な文字、適切な表現、簡潔な文章を心掛ける」こと。 日頃から、ニュースなどに注目し、内容を正確にとらえる訓練をすること。 子どもたちの感性や思考に影響することを理解し、正しい表現や言葉遣いをすること。						
授 業 計 画	第1回 文字とことばの役割 : 文字とことばの伝達手段としての重要性を理解する。 第2回 書写1 : 新聞コラムを丁寧に書写し、内容を要約文にする。 第3回 書写2 : 新聞社説を丁寧に書写し、内容を要約文にする。 第4回 文字研究 : 用意した文章に使用されている漢字について分類整理をする。 第5回 書写3 : 新聞社説を丁寧に書写し、内容を要約文にする。 第6回 要約文 : 新聞記事の内容をとらえ短い文章に要約する。 第7回 紹介文1 : 新聞等の人物紹介文を読み、内容を短い文章にまとめる。 第8回 紹介文2 : 伝記や偉人伝などを読みその人物の紹介文を作成する。 第9回 紹介文3 : 身近な人物の人柄や人間性が思い浮かぶ人物紹介文を作成する。 第10回 紹介文4 : 童話や絵本を選定し、選定理由がわかる本の紹介文を作成する。 第11回 聞き取り1 : 読み上げる文章を聞き取り、内容を文章にまとめる。 第12回 聞き取り2 : // 第13回 想定文1 : 保護者に宛てた連絡の文章を作成する。 第14回 想定文2 : // 第15回 想定文3 : //						
評 価 方 法	毎時間提出する課題を15回分を累計して評価する。 定期試験（20%）、平常点（80%）						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参 考 資 料 等	新聞、童話・絵本など						
備 考	課題提出の用紙は、光塩短大指定の原稿用紙を指定します。各自で用意すること。 新聞を活用するので「道新、朝日、読売、毎日」から一紙の朝刊を、各自で用意すること。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
国際文化	講義	2	選択			1年・後期	南部ユンクィアンしず子 ほか
受講する上での注意事項	国際社会へ広く目を向けて、楽しみながら積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	国際文化とは、世界の国々に目を向け、その国の歴史、自然、経済、教育等について学びながら、各国の現在の状況を把握し、それを根底として成り立つ文化を理解することである。 本講義では、ビデオやスライド、外国人講師による授業も含めながら、各国の文化を肌で感じられる講義を通じて理解を深める。						
到達目標	① 世界の国々に目を向け、文化や歴史について理解を深め、国際交流の視点から考察する。 ② 世界各国の異文化とのかかわりについて相互理解する。						
授業の進め方	世界の国々の現状から文化について、講義に入る時授業展開を紹介する。						
時間外学修 学修上の助言	普段から国際社会に広く目を向け、自ら興味をもって調べ、知識を広げること。						
授 業 計 画	第 1 回 国際文化の概論 第 2 回～第 4 回 日本の文化 I～Ⅲ 第 5 回～第 7 回 ヨーロッパの文化 I～Ⅲ 第 8 回～第 9 回 アメリカの文化 I・Ⅱ 第10回～第11回 イスラムの文化 I・Ⅱ 第12回～第15回 アジアの文化 I～Ⅳ						
評価方法	定期試験（90%）、平常点（10%）平素の受講態度などを加味する。						
教科書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
セラピー	演習	2	選択	選択	選択	2年・前期	浅 野 雅 子 杉 原 式 穂
受講する上での注意事項	（音楽療法：浅野）日頃から音楽療法に対して関心を寄せてください。 また、講義内の演習においては積極的な参加を望みます。 （園芸療法：杉原）グループワークや実技では積極的に取り組むよう求む。						
授 業 の 目的・概要	セラピーとは人が言語的に、あるいは非言語的に何かを表現することで自らの心や体を癒していく活動である。 同時に人と人との間に築かれる信頼関係を基に、互いに表現し、表現を受け取るという相互交流の視点も重要である。 各セラピーの理論的背景の学びと実践を通し、自分自身の心を見つめなおすことで癒しに通ずる体験を目標とする。加えて、将来、現場において他者の個性を理解し、人とのかかわることに活かされる内容とする。						
到達目標	音楽療法 ① 音楽の療法的役割について説明することができる。 ② 音楽を活用した様々な実践活動について説明することができる。 ③ 音楽を活用した様々な実践活動について、その一部を実施することができる。 園芸療法 ① 園芸療法の基礎的概念を理解する。 ② 園芸療法で用いる手法を理解する。 ③ 園芸療法の保育現場における活用を理解する。						
授業の進め方	音楽療法 毎回、資料を配付します。授業は講義と演習とし、演習ではグループワークを実施します。 園芸療法 必要資料は当日配付する。授業はパワーポイントによる講義、グループワーク、実技で進める。						
時間外学修 学修上の助言	（浅野） （杉原）実習で播種（種蒔き）した植物の栽培を自宅で継続し、成長についての報告を行う。						
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション （浅野） 第 2 回 療法としての音楽 第 3 回 人と音楽 第 4 回 音楽の療法的役割 第 5 回 音楽を用いた療法的活動① 第 6 回 音楽を用いた療法的活動② 第 7 回 音楽を用いた療法的活動③ 第 8 回 音楽療法のまとめ （杉原） 第 9 回 植物・自然環境の意義 第10回 植物を使用した応用活動 ：植物利用法とは 第11回 // ：芝人形作り、押し花アート 第12回 // ：葉っぱペイント、ラムズイヤーのトトロ 第13回 植物栽培の基本と応用 ：コンテナガーデン 第14回 園芸療法概論 第15回 園芸療育と子育て支援						
評 価 方 法	課題（30%）、実習への取り組み（40%）、平常点（30%）平素の受講態度を加味する。						
教 科 書	音楽療法：使用しない 園芸療法：使用しない						
参 考 書 参 考 資 料 等	音楽療法 「ひとと音・音楽 療法として音楽を使う」山根寛編（青海社） 園芸療法 「ひとと植物・環境 療法として園芸を使う」山根寛編（青海社）						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
手話	演習	2	選択	選択	選択	2年・前期	若 浜 ひろ子 藤 井 義 子
受講する上での注意事項	全国手話検定4・5級合格を目指す。 保育関係の業務に限らず、広く活用できるよう、楽しみながら積極的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	外見では分かりにくい聴覚障がいについての理解を深めながら、実際に聴覚障がい者と接した時に、適切な対応ができ、かつ積極的にコミュニケーションできるように指導する。 聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである手話という言葉を基礎から学び、初歩的な会話ができるように指導する。また、聴覚障がい者が社会生活を送る上での様々なバリアについても考え、理解を深める。						
到達目標	① 手話について学び、実践を通して簡単な日常会話ができる。 ② 聴覚障がい者の社会生活を理解できる。						
授業の進め方	授業に必要な資料は、プリントを配付して理解を深め、授業は実技と講義で進める。						
時間外学修 学修上の助言	各自でも手話を学べるようにDVDの活用をする。 講師の手話表現をしっかり見て、積極的に手を動かすこと。						
授 業 計 画	第1回 ガイダンス 「聴覚障がい者について」 聴覚障がいの基礎知識 I 実技：身振りで伝える。 第2回～第3回 手話の基礎知識（1） 「手話、コミュニケーションについて」 実技：挨拶 実技：自己紹介・家族紹介する。 第4回～第5回 聴覚障がいの基礎知識 II 「聴覚障がい者の生活を考える（私の大切な家族）」 実技：趣味について話す。 第6回 聴覚障がいの基礎知識 III 「耳の仕組み・聞こえの仕組みについて」 実技：数字を使って話す。 第7回 聴覚障がいの基礎知識 IV 「聴覚障がい者の労働について」 実技：仕事について話す。 第8回～第10回 聴覚障がいの基礎知識 V 「聴覚障がい者の生活について」 実技：住所を紹介する。 実技：自己紹介のまとめ 第11回～第12回 手話の基礎知識（2） 「ろう教育について」 実技：時に関する手話 ① 実技：時に関する手話 ② 第13回 手話の演習（保育所（園）での模擬場面）（1） 第14回 手話の演習（保育所（園）での模擬場面）（2） 第15回 読み取り・手話表現のまとめ						
評価方法	定期試験：実技・筆記（80%） 平常点：レポート提出、受講態度（20%）						
教科書	「さっぽろの手話」「さっぽろの手話DVD」（公益社団法人札幌聴覚障害者協会）						
参 考 書 参考資料等	「わたしたちの手話学習辞典Ⅰ」（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局） 「わたしたちの手話学習辞典Ⅱ」（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局）						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
ボランティア活動	演習	2	選択			1年・後期	鎌 倉 亮 太
受講する上での注意事項	自らがボランティア先を探し、自主的に行うものであり、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	ボランティアとは、自発的に（自発性・主体性の原則）、他者や社会のために（社会性・連帯性の原則）金銭的な利益を第一に求めない（無給性・無償性の原則）活動のことである。 本講義では、ボランティア活動の意義、心構え、社会的役割などの基礎知識を学び、実践活動に取り組み、スキルや知識の獲得を目指す。実際に活動を行うことで、単に他者を助けるといった奉仕的な面だけではなく、自己を向上させる大きな意義を見い出すことを目的とする。						
到 達 目 標	① 自己実現：活動を通して役に立つ存在として認められ、自分の生き方や社会的存在の意味を見出す。 ② 社会的存在の確認：社会生活を営む上で必要なルールを実体験し、社会の一員としての自覚を持つ。 ③ 主体性と創造性を養う：自らの意欲と選択によって参加し主体的に問題を見つけ創造的に取り組む能力を育む。 ④ 社会問題に対する意識の向上と国際人への成長：社会福祉はもとより、環境問題や国際協力など多岐にわたる活動に参加することにより、社会の一員として問題意識を養い、併せて国際的な視野を育む。						
授業の進め方	全15回のうち、5回は学内における授業、10回は学外における実践活動とする。 *学外における活動時間は、15時間以上必要である。						
時間外学修 学修上の助言	自主的に計画し、積極的にボランティア活動に参加すること。 ボランティア活動を通じて学んだことを報告書にまとめるなど、自主学修に努める。						
授 業 計 画	第1回 ボランティア活動の意義 第2回 様々なボランティア活動の把握、活動計画案作成 第3回～第8回 実践活動 第9回 中間報告 第10回～第13回 実践活動 第14回 報告書作成 第15回 実践活動報告						
評 価 方 法	日課報告書（40%）、活動報告書（40%）、平常点（20%）						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
情報処理	演習	2	必修	必修	必修	1年・後期	中 山 理智恵
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	現代社会に於いて、コンピュータはあらゆる場面で使われており、もはや必要不可欠な社会基盤である。 この授業では、パーソナルコンピュータを利用した情報収集やオフィスツールの操作方法を的確に学び、完成度の高い資料作成ができるテクニックと情報セキュリティなどを含めた幅広い知識を修得し、社会に出てからも活用できる実践的なスキルを身に付けることを目指す。						
到達目標	① 基礎知識をしっかりとマスターし、様々な例題に応じた資料を独力で作成するための判断力と思考力を身につける。 ② 個々の基本的資質を高め、保育の現場でも活用できるような完成度の高い資料作成ができることを目指す。						
授業の進め方	アプリケーションごとに操作技法を説明し、各回で説明した内容に対応した練習問題と指定課題を出題して、修得状況を確認していく。修得状況によっては、その後の授業内容を工夫しながら進めると共に、アプリケーションごとに作成した操作ガイドを参考資料として授業内で配付し、課題作成時に活用してもらう。 練習問題については、授業内で口頭解説する。						
時間外学修 学修上の助言	修得した操作を活用できる様に、学修のまとめとして実習ノートを完成させ、課題作成時にも十分な成果を出せるようにすること。						
授 業 計 画	第1回 ガイダンス（授業の進め方・留意事項）、PC操作について説明 第2回 Wordによる文書作成Ⅰ：文字書式・段落書式の設定、罫線作成 第3回 Wordによる文書作成Ⅱ：インデント・タブの設定、段組み設定 第4回 Wordによる文書作成Ⅲ：ページレイアウトの設定、差し込み印刷 第5回 Wordによる文書作成Ⅳ：Smart Artの作成、図形の作成、図の挿入 第6回 Wordによる文書作成Ⅴ：ヘッダー / フッターの設定、ページ番号の設定 第7回 Excelによるデータ処理Ⅰ：効率的なデータ入力設定と表作成 第8回 Excelによるデータ処理Ⅱ：四則演算と関数を利用した計算 第9回 ビジネス文書作成演習 第10回 園だより作成演習 第11回 クラスだより作成演習 第12回 給食だより作成演習・年間行事予定作成演習 第13回 PowerPointによるプレゼンテーション資料作成Ⅰ：基本操作 第14回 PowerPointによるプレゼンテーション資料作成Ⅱ：プレゼンテーション作成演習 第15回 まとめとふりかえり						
評 価 方 法	指定課題の提出（80%）、平常点（20%）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	アプリケーションごとに作成した独自の操作ガイド（プリント）を授業内で配付する。 それ以外の参考資料は授業内で説明する。						
備 考	指定課題は、成績評価と修得状況を把握する上で重視するので、提出期日を守り忘れずに提出すること。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
芸術鑑賞・教養講座Ⅰ	演習	1	必修			1年・通年	保育科教員 ほか
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 平常授業の時間割のほか、学外での芸術鑑賞・特別講座や本学キャンパスで行われる特別授業・講演などがあるため各自開講日時を確認して受講すること。						
授 業 の 目的・概要	美術や音楽などの芸術を鑑賞し知性や感性を磨く。また、社会で求められるマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を高める。						
到達目標	① 美術や音楽などの芸術を鑑賞し、知性や感性を磨き、豊かな教養を身に付ける。 ② 社会で求められているマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を身に付ける。						
授業の進め方	芸術鑑賞（美術館やコンサートホールなどで実際に鑑賞する。） 教養講座（時代の流れに即した内容をテーマにした講演会を受講する。） 特別授業（外部講師による特別に開講される授業を受講する。） マナー講座（社会で求められているマナーや知識の授業を受講する。）						
時間外学修 学修上の助言	学修のまとめとしてレポートを作成し、更に知識を高める。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 第3回 第4回 第5回 全学行事 第6回 美術鑑賞 第7回 学園歌 第8回 フランス料理特別授業 第9回 テーブルマナー 第10回 エコライフ 第11回 芸術鑑賞 第12回 個人情報に関する講演 第13回 食育講座 第14回 など 第15回 まとめ						
評価方法	提出物など（50%）、平常点（50%）平素の受講態度などを加味する。						
教科書	使用しない						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
芸術鑑賞・教養講座Ⅱ	演習	1	必修			2年・通年	保育科教員 ほか
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 平常授業の時間割のほか、学外での芸術鑑賞・特別講座や本学キャンパスで行われる特別授業・講演などがあるため各自開講日時を確認して受講すること。						
授 業 の 目的・概要	美術や音楽などの芸術を鑑賞し知性や感性を磨く。また、社会で求められるマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を高める。						
到達目標	① 美術や音楽などの芸術を鑑賞し、知性や感性を磨き、豊かな教養を身に付ける。 ② 社会で求められているマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を身に付ける。						
授業の進め方	芸術鑑賞（美術館やコンサートホールなどで実際に鑑賞する。） 教養講座（時代の流れに即した内容をテーマにした講演会を受講する。） 特別授業（外部講師による特別に開講される授業を受講する。） マナー講座（社会で求められているマナーや知識の授業を受講する。）						
時間外学修 学修上の助言	学修のまとめとしてレポートを作成し、更に知識を高める。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 第3回 第4回 第5回 全学行事 第6回 美術鑑賞 第7回 学園歌 第8回 個人情報に関する講演 第9回 テーブルマナー 第10回 年金セミナー 第11回 芸術鑑賞 第12回 消費者のための講座 第13回 食育講座 第14回 など 第15回 まとめ						
評価方法	提出物など（50%）、平常点（50%）平素の受講態度などを加味する。						
教科書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業 必修	保育士 必修	幼稚園 必修	開設年次・開講期	担 当 教 員
英語Ⅰ	演習	2	フランス語Ⅰとどちらかを必修			1年・前期	根 岸 美 穂
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。英語Ⅰを履修しなければ、英語Ⅱ・英語Ⅲの科目選択はできない。また、英語Ⅰからフランス語Ⅱへの履修はできない。						
授 業 の 目的・概要	Simple conversation and communication skills (speaking, listening, reading and writing) will be developed in class through English topics related to childcare. Quizzes will be given regularly. (日本のグローバル化に伴い、国内の保育園、幼稚園などでも英語を使う機会が増えてきており、クラスでは保育英語の導入と基礎レベルの英文法、会話をマスターしていく。)						
到 達 目 標	Students will learn the basic conversational English. (保育園、幼稚園等で利用できる簡単な会話を身につける。)						
授業の進め方	Handouts will be provided in class. (プリントを配付して授業を進める。)						
時間外学修 学修上の助言	受身になるのではなく、積極的に授業に参加し発言することが望ましい。 またグループ活動が多いため協調性が求められる。						
授 業 計 画	第1回 Exam 第2回 Self-introduction 第3回 Stages of growth 第4回 At the nursery school (1) 第5回 At the nursery school (2) 第6回 At the nursery school (3) 第7回 Sickness and illnesses 第8回 Giving instructions 第9回 Nursery songs and games 第10回 Early childhood English / baby items 第11回 Early childhood English / stages of growth (1) 第12回 Group presentation 第13回 Group presentation 第14回 Early childhood English / stages of growth (2) 第15回 Review						
評 価 方 法	Grading will be based on participation attendance, group presentation and examination. テスト (50%)、授業参加・発表・課題 (50%)						
教 科 書	Handouts 授業プリント						
参 考 書 参考資料等	新保育の英語 “English for Nursery Schools and Kindergartens” by Kazuko Morita (三修社) 「保育の英会話」赤松直子・久富陽子 (萌文書林) “English For Child Care” by Marianne Brems, Julaine Herreid Rosner and Marsha Chan (Sunburst Media)						
備 考	学生のレベルに応じ授業を進めるため、内容が少しかわる場合もある。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
英語Ⅰ	演習	2	必修 フランス語Ⅰとどちらかを必修	必修	必修	1年・前期	ブラウン 明 子
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。英語Ⅰを履修しなければ、英語Ⅱ・英語Ⅲの科目選択はできない。また、英語Ⅰからフランス語Ⅱへの履修はできない。						
授 業 の 目的・概要	Simple conversation and communication skills (speaking, listening, reading and writing) will be developed in class through English topics related to childcare. Quizzes will be given regularly. 国際化が進む中、「英語教育」「英語活動」を導入している幼稚園・保育園が増えており、英語ができるスタッフのニーズはどの職種においても高まっている。将来、就職面接などの際に「特技」として、「英語でごあいさつを子どもに教えることができる」「英語で歌が歌える」「簡単な英単語を子どもに教えることができる」というアピールができるよう、的を絞った具体的な内容で基礎英語を習得する。講師自身が約14年にわたって幼稚園での英語レッスンを続けている経験を活かし、すぐに使える英語の歌・ダンス・あいさつなどを題材に学ぶ。						
到 達 目 標	Students will learn the basic conversational English. (保育園、幼稚園等で利用できる簡単な会話を身につける。)						
授業の進め方	Handouts will be provided in class. (プリントを配付して授業を進める。)						
時間外学修 学修上の助言	受身になるのではなく、積極的に授業に参加し発言することが望ましい。 またグループ活動が多いため協調性が求められる。						
授 業 計 画	第1回 Exam 第2回 Self-introduction 第3回 Stages of growth 第4回 At the nursery school (1) 第5回 At the nursery school (2) 第6回 At the nursery school (3) 第7回 Sickness and illnesses 第8回 Giving instructions 第9回 Nursery songs and games 第10回 Early childhood English / baby items 第11回 Early childhood English / stages of growth (1) 第12回 Group presentation 第13回 Group presentation 第14回 Early childhood English / stages of growth (2) 第15回 Review						
評 価 方 法	Grading will be based on participation attendance, group presentation and examination. テスト (50%)、授業参加・発表・課題 (50%)						
教 科 書	Handouts 授業プリント						
参 考 書 参考資料等	新保育の英語“English for Nursery Schools and Kindergartens” by Kazuko Morita (三修社)						
備 考	学生のレベルに応じ授業を進めるため、内容が少しかわる場合もある。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業 必修	保育士 必修	幼稚園 必修	開設年次・開講期	担 当 教 員
フランス語Ⅰ	演習	2	英語Ⅰとどちらかを必修			1年・前期	ヤヤウィ・セドリック
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。フランス語Ⅰを履修しなければフランス語Ⅱの科目選択はできない。また、フランス語Ⅰから英語Ⅱへの履修はできない。						
授 業 の 目的・概要	フランス語で日常生活のコミュニケーションを取るための基本を学ぶ。						
到達目標	① フランス語で自己紹介ができる。 ② フランス語で相手についてたずねる。						
授業の進め方	会話を優先した授業を進める。						
時間外学修 学修上の助言	前の授業で学修した語彙やスピーチ・アクト、文法ポイントを復習して、覚える。						
授 業 計 画	第1回 アルファベット 第2回 教室でよく使う表現 第3回 出会い1 第4回 出会い2 第5回 出会い3 第6回 出会い4 第7回 出会い5 第8回 紹介1 第9回 紹介2 第10回 紹介3 第11回 紹介4 第12回 紹介5 第13回 紹介6 第14回 繰り返し学修 第15回 まとめ						
評価方法	口頭試験（80%）、平素の受講態度（20%）。						
教科書	「EN SCENE I Nouvelle édition 場面で学ぶフランス語1」（三修社）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
英語Ⅱ	演習	2	選択	選択	選択	1年・後期	ブラウン 明 子
受講する上での注意事項	英語Ⅰの単位を修得した者に限る。 なお、英語Ⅲを履修するためには、本科目の単位を修得する必要がある。						
授 業 の 目的・概要	Simple conversation and communication skills (speaking, listening, reading and writing) will be developed in class by acting out skits. Quizzes will be given regularly. 保育・教育の場面で実際に使える英語の歌・ゲーム・会話を題材に、英語を使ったコミュニケーションのスキルアップを目指す。						
到達目標	Students will be able to perform a variety of oral communicative tasks. 授業で学んだことを、実際に保育・教育の場で使えるようになることを目標とする。						
授業の進め方	テキストと配付プリントで授業を進める。						
時間外学習 学修上の助言	受身になるのではなく、積極的に授業に参加し発言することが望ましい。 また、グループ活動が多いため協調性が求められる。						
授 業 計 画	第1回 Self-introduction 第2回 Fashion (1) 第3回 Fashion (2) 第4回 Room Layout (1) 第5回 Room Layout (2) 第6回 Sports (1) 第7回 Sports (2) 第8回 Health (1) 第9回 Health (2) 第10回 Jobs (1) 第11回 Jobs (2) 第12回 Movies (1) 第13回 Movies (2) 第14回 Movies (3) 第15回 Review						
評価方法	Grading will be based on participation attendance, group presentation and examination. テスト (50%)、課題・授業参加・発表 (50%)						
教科書	Handouts 授業プリントを配付する。						
参考書 参考資料等	「新・保育の英語」森田和子著（三修社）						
備考	学生のレベルに応じ授業を進めるため、内容が少し変わる場合がある。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
フランス語Ⅱ	演習	2	選択	選択	選択	1年・後期	ヤヤウィ・セドリック
受講する上での注意事項	フランス語Ⅰの単位を修得した者に限る。						
授 業 の 目的・概要	フランス語で日常生活のコミュニケーションを取るための基本を学ぶ。						
到 達 目 標	① フランス語で趣味について話す。 ② フランス語で家族を紹介する。						
授業の進め方	会話を優先した授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	前の授業で学修した語彙やスピーチ・アクト、文法ポイントを復習して、覚える。						
授 業 計 画	第1回 専攻と余暇1 第2回 専攻と余暇2 第3回 専攻と余暇3 第4回 専攻と余暇4 第5回 家族1 第6回 家族2 第7回 家族3 第8回 家族4 第9回 持ち物1 第10回 持ち物2 第11回 持ち物3 第12回 持ち物4 第13回 持ち物5 第14回 繰り返し学修 第15回 まとめ						
評 価 方 法	口頭試験（80%）、平素の受講態度（20%）。						
教 科 書	「EN SCENE I Nouvelle édition 場面で学ぶフランス語1」（三修社）						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
英語Ⅲ	演習	2	選択	選択	選択	2年・前期	根 岸 美 穂
受講する上での注意事項	英語Ⅱの単位を修得した者に限る。						
授 業 の 目的・概要	Simple conversation and communication skills (speaking, listening, reading and writing) will be developed in a group environment using practical travel situations. Quizzes will be given regularly. (英語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法表現をおさらいし、旅行英会話に挑戦する。) (定期的に小テストを行う。)						
到達目標	Students will be able to perform a variety of oral communicative tasks. (様々な場面における英語力向上を目指す。)						
授業の進め方	Handouts will be distributed in class. (配付プリントで授業を進める。)						
時間外学修 学修上の助言	受身になるのではなく、積極的に授業に参加し発言することが望ましい。						
授 業 計 画	第1回 Asking about experiences 第2回 Following directions 第3回 Talking about your dream vacation 第4回 Making reservations 第5回 Talking about sickness and health 第6回 Shopping / Bargaining 第7回 Describing appearances 第8回 Giving advice 第9回 Ordering at a restaurant 1 第10回 Ordering at a restaurant 2 第11回 Describing experiences in the past / Feeling and emotions 第12回 Presentation 第13回 Presentation 第14回 Sending an e-mail 第15回 Review						
評価方法	Grading will be based on participation attendance, group presentation and examination. テスト (50%)、課題・授業参加・発表 (50%)						
教科書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	“Talk a Lot” by David Martin (EFL Press) “Just Talk” by Kurt Scheibner & David Martin (EFL Press)						
備 考	学生のレベルに応じ授業を進めるため、内容が少し変わる場合がある。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
体育理論	講義	1	選択	必修	必修	1 年・前期	渡 邊 望 工 藤 誠
受講する上での注意事項	保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望の履修者はいずれも必修である。						
授 業 の 目的・概要	生涯にわたり心身ともに健康な体であるための基本的な知識の理解を深めるとともに、生活習慣の見直しができるようにすることで、自らの健康を管理するだけでなく、より健康的なライフスタイルを確立できる能力を養う。 また、女性の体のしくみや、心と体の関連性について学び、健康づくりの一助となることを目的とする。						
到 達 目 標	① 健康の保持・増進をするための基本的な知識を身に付け、心身の健康を自ら管理できるようにする。 ② 運動がもたらす効果の科学的理解を深め、実践できる能力を身に付ける。 ③ 女性としての体のしくみについて理解する。 ④ 心の健康や病気を理解する。						
授業の進め方	必要な資料は、プリントを配付し、パワーポイントを使用して授業を進めていく。						
時間外学修 学修上の助言	健康志向ブームでいろいろな情報が氾濫している中で、正しい知識を持って見極めることができるよう心がける。						
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション : 健康の捉え方 第 2 回 運動と健康 : 生活習慣病と運動の効果 第 3 回 女性の健康 ① : 飲酒と喫煙、ダイエット 第 4 回 女性の健康 ② : 女性ホルモンの役割 第 5 回 熱中症とは : 体温調節と熱中症 第 6 回 からだを動かすしくみ : 骨と筋肉の構造と機能 第 7 回 神経系のしくみ : 神経系の構造とネットワーク 第 8 回 メンタルヘルス : 心の病気とストレス						
評 価 方 法	定期試験（60%）、提出物（30%）、平常点（10%）平素の受講態度や課題の取り組みなどを加味する。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
体育実技	実技	1	選択	必修	必修	1年・前期	渡 邊 望 工 藤 誠
受講する上での注意事項	保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望の履修者はいずれも必修である。 運動ができる服装（ジャージなど）で参加すること。使用する用具の準備や後片付けを積極的に行うこと。 ピアス・ネックレスなどの装飾品は、自他ともにケガ防止のためはすすこと。						
授 業 の 目的・概要	1 心身ともに健康であるためには、運動やスポーツを主体的に行うことが不可欠の要件であることから、各種の運動種目を通じて、自らが体を動かす楽しさを味わい、生涯にわたって運動の習慣を身に付ける。また、自己の体力向上に効果的な運動を行うとともに自分に合ったスポーツライフを実現できる。 2 ゲーム形式を通じて仲間と協力し、体を動かす楽しさを共有することで交流を深め、コミュニケーションを図る。						
到 達 目 標	① 運動の楽しさや喜びを味わい、自ら進んで運動に取り組むことができる。 ② 自己の体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付け実践することができる。 ③ 仲間と協力してスポーツを楽しめる能力を身に付ける。						
授業の進め方	ウォーミングアップとしてラジオ体操や体づくりのトレーニング、ストレッチなどでしっかり体を動かしてから各運動種目を行う。						
時間外学修 学修上の助言	事故やけが防止のため準備運動は、しっかりと行うこと。						
授 業 計 画	第 1 回						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
キャリア教育	演習	2	必修	選択	選択	1年・後期	南部ユンクィアンしず子 ほか
受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 将来、社会の一員として職に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	本演習では、社会人に必要な基礎力やマナーを身に付け、社会人としての資質を磨くことを目的とする。 また「職業キャリア」にとどまらず、個人の環境や状況、人生の節目や転機に応じて柔軟に、他者・社会との関わりのなかで、自分の人生を主体的に創造していける力を身に付け、キャリア教育本来の目標でもある「人間力」や「生きる力」の育成を目指す。						
到 達 目 標	① 自己理解を深めることを通して、社会への関心を深め働くことの意義を知る。 ② 社会で求められているスキルや能力、姿勢について学ぶ（社会人基礎力）。 ③ 卒業後のキャリアを自ら考えることができる。						
授業の進め方	授業担当者による社会人基礎力の養成講座と、外部講師による講義・質疑応答を行う。						
時間外学修 学修上の助言	講義を通じて関心を抱いたテーマに関連した文献にあたるなどして、受講者各自で発展的な学修をすること。						
授 業 計 画	第1回 授業オリエンテーション、キャリアとは何か：学科長講話・オリエンテーション 第2回 社会から求められる資質 第3回 就職活動について：就職活動の実際 第4回 キャリア形成と職業理解：保育者としての資質、社会人としての資質 第5回 一般常識的知識・文章読解力：読む・書く・考える 第6回 キャリア形成と自己理解：自己分析 第7回 書いて伝える力Ⅰ：自己PR・志望動機の作り方、エントリーシートの書き方 第8回 社会人としてのマナー：社会人として必要なマナー 第9回 書いて伝える力Ⅱ：論作文 第10回 円滑なコミュニケーションⅠ：言葉の表現、話し方、伝え方の工夫 第11回 円滑なコミュニケーションⅡ：他者理解を深める、聞き上手になること 第12回 ストレスマネジメント：ストレス評価とリラクゼーション、「生きる力」 第13回 話して伝える力Ⅰ：面接試験の基本 第14回 話して伝える力Ⅱ：面接試験（集団）に向けて 第15回 まとめ：キャリア教育のまとめ						
評 価 方 法	提出物など（40%）、平常点（60%）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参 考 資 料 等	授業内で適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育原理	講義	2	選択	必修	選択	1年・前期	田 崎 栄 子
受講する上での注意事項	本授業は、中核的な内容であり他の教科目と全てつながっていることを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	子ども理解から出発する保育の基本について学び、現代社会における保育者の役割について理解を深める。						
到達目標	① 保育の基礎・基本について理解を深める。 ② 保育内容と方法の基礎について理解を深める。 ③ 保育思想と歴史の変遷について理解を深める。 ④ 保育の現状と課題について理解を深める。						
授業の進め方	授業計画に沿ってプリント、板書、視聴覚機器を活用して授業を進めていく。						
時間外学修学修上の助言	学修のまとめとしてノートを完成させ、卒業後に活用できる総合力の向上を目指すようにすること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 「保育」とは何か 第3回 保育の意義、目的 第4回 保育の原点 第5回 乳幼児の理解 第6回 「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」における保育 第7回 保育の内容・方法 第8回 保育の環境 第9回 保育の計画と実践および評価 第10回 諸外国の保育思想と保育施設の歴史 第11回 日本の保育思想と保育施設の歴史 第12回 子育て支援と保育制度 第13回 保育者の専門性 第14回 保育の現状と課題 第15回 まとめ						
評価方法	定期試験（80%）、レポート・提出物・発表など、平常点（20%）平素の受講態度などを加味する。						
教科書	使用しない						
参考書 参考資料等	必要に応じて適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
教育原理	講義	2	選択	必修	必修	2年・前期	南 部 正 人
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 授業の内容は教育史及び社会的・制度的・経営的事項を踏まえ、教育の基本姿勢を身に付けること。						
授 業 の 目的・概要	① 教育の基本とその意義を学ぶ。 ② 教育が社会に必要な理由について学ぶ。 ③ 教育が人間の成長と発達に果たす役割を学ぶ。 ④ 教育は目的や場面に応じ多様であることを学ぶ。 ⑤ 教育は歴史や社会の変化の中で変容することを学ぶ。						
到 達 目 標	① 教育の基本及び意義を理解する。 ② 社会で教育が果たす役割について理解する。 ③ 人間の成長と発達には教育が必要であることを理解する。 ④ 目的や場面に応じて多様な教育活動が必要であることを理解する。 ⑤ 歴史や社会の変化の中で教育が果たす役割について理解する。						
授業の進め方	各回でテーマを設定しそれに沿って授業を行う。 授業中の様々な発問に対して、積極的に発言をするなど意欲的な取り組みの姿勢が求められる。						
時間外学修 学修上の助言	授業後、各回のテーマについて、各自でより深く考察を重ね、教育者としての意識を高めることが大切である。						
授 業 計 画	第 1 回 教育とはなにか : 教育の基本原則とその重要性を学ぶ。 第 2 回 なぜ教育が必要か : 教育の目的と意義について学ぶ。 第 3 回 学校のはじまり : 教育機関としての学校について学ぶ。 第 4 回 学校制度の歴史 : 学校の発生から現代までの制度の変遷を学ぶ。 第 5 回 日本の学校制度 : 日本の学校の歴史と変遷を学ぶ。 第 6 回 教育課程の編成 : 教育課程の目的と編成のしかたについて学ぶ。 第 7 回 学力とはなにか : 人が身につけなければならない学力とは何かを学ぶ。 第 8 回 教師の役割 : 子どもの成長と発達に果たす教師の役割について学ぶ。 第 9 回 家庭の役割 : 子どもの成長と発達に果たす家庭の役割について学ぶ。 第10回 地域社会の役割 : 子どもの成長と発達に果たす地域社会の役割について学ぶ。 第11回 特別支援教育 : 特別支援教育及び障害について基礎を学ぶ。 第12回 研修の意義 : 求められる教師像と資質向上の方法について学ぶ。 第13回 子どもの権利 : 子どもの人権を守る世界の動きについて学ぶ。 第14回 教科外の教育活動 : 時代や社会の変化に対応する教育活動について学ぶ。 第15回 新しい教育課題 : 教育行政の動きと教育の方向について学ぶ。						
評 価 方 法	出席状況、受講姿勢(関心・意欲・態度)、課題取組(意欲・知識・向上心)、筆記試験(知識・向上心)の事項を総合して評価する。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	「やさしい教育原理」田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著(有斐閣アルマ) その他の「教育原理」及び「教職概論」等						
備 考	各自で参考となる書籍を用意することが望ましい。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
児童家庭福祉	講義	2	選択	必修		1年・後期	磯 部 ゆかり
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	子どものウェルビーイングに大きくかかわる保育士・幼稚園教諭として、子どもや保護者、子育て家庭の現状を理解し、それらを支える制度、サービスなどを学ぶ。児童家庭福祉の意義、内容を理解する。						
到 達 目 標	① 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ② 児童家庭福祉と保育の関連性及び児童の人権について理解する。 ③ 児童家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 ④ 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 ⑤ 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。						
授業の進め方	必要に応じてプリントを配付するが、テキスト使用と板書を基本とする。DVD利用で映像を通じて理解を深める。						
時間外学修 学修上の助言	事前にテキストに目を通しておくこと。						
授 業 計 画	第1回 保育における児童家庭福祉Ⅰ : なぜ児童家庭福祉を学ぶのか 第2回 保育における児童家庭福祉Ⅱ : 保育とは何か 第3回 現代社会と児童家庭福祉Ⅰ : 現代社会と子ども・家庭 第4回 現代社会と児童家庭福祉Ⅱ : // 第5回 現代社会と児童家庭福祉Ⅲ : 現代社会と児童家庭福祉 第6回 児童家庭福祉の意義と歴史Ⅰ : 概念・理念 第7回 児童家庭福祉の意義と歴史Ⅱ : 歴史 第8回 法制度と実施体制Ⅰ : 法体系 第9回 法制度と実施体制Ⅱ : 実施体制 第10回 法制度と実施体制Ⅲ : 権利擁護 第11回 施策の現状と課題Ⅰ : 子育て支援サービス 第12回 施策の現状と課題Ⅱ : 母子保健・障害のある子どもへの支援 第13回 施策の現状と課題Ⅲ : 健全育成・児童虐待 第14回 施策の現状と課題Ⅳ : 社会的養護・ひとり親家庭福祉 第15回 児童家庭福祉の援助活動 : 援助活動としての保育						
評 価 方 法	定期試験（70%）、提出物など平常点（30%）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	「新 保育士養成講座『児童家庭福祉』」新保育士養成講座編纂委員会編（全国社会福祉協議会） 「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）						
参 考 書 参考資料等	「子どもと家庭の福祉を学ぶ」松本園子著（ななみ書房） 「学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会『保育と児童家庭福祉』」櫻井奈津子編（みらい）						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
社会福祉	講義	2	選択	必修		1年・前期	遠 藤 光 博																																													
受講する上での注意事項	少子高齢化社会の現状や将来展望などの情報に関心を持って、新聞などの関連記事について学修しておくことが望ましい。																																																			
授 業 の 目的・概要	序盤で欧米や我が国の社会福祉の変遷と社会的、思想的背景を学修し、更に現在の我が国の社会福祉制度の現状を概観する。主に、公的扶助、障がい福祉施策を中心に講義を行う。 3回目以降は、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉について講義を行い、特に障がい、児童福祉については適宜事例を挙げて授業を進めたい。また、児童福祉、高齢者福祉を関連させながら少子高齢化社会についても考察すると同時に、子ども子育て新支援制度についても学ぶ。 後半は、支援を必要とする人達の権利擁護、人権意識の現状や社会福祉援助技術の基礎を学ぶと同時に、ノーマライゼーション理念に基づく現代の社会福祉の理念や、対人援助者のあり方についても学ぶ。																																																			
到 達 目 標	① 社会福祉が主に対象とする「児童」「高齢者」「障がい児・者」「生活困窮者」等への施策や「年金・介護・医療」等社会保障の現状と枠組みについても理解する。 ② 保育支援も含めた対人支援者に求められる資質及び具体的な支援方法を学び、子ども・親子・家族、地域も念頭ににおいての支援が幅広く出来る素地を養う。																																																			
授業の進め方	各講義毎にプリントを作成し配付して授業を進める。事例検討についてはレポートを課す。																																																			
時間外学修学修上の助言	保育を含め子ども支援は単に「子どもの支援」に限らず、親子や家族などの視点を変えたと色々な課題が見えてくる。広い視野で対人支援に当れるよう新聞情報などを意識してほしい。																																																			
授 業 計 画	<table><tr><td>第1回</td><td>社会福祉の歴史の変遷</td><td>：社会的背景と思想（日本、欧米の社会福祉の歴史）</td></tr><tr><td>第2回</td><td>社会福祉の現状</td><td>：対象とニーズ（公的扶助・児童・高齢者・障がい者施策と社会保障制度）</td></tr><tr><td>第3回</td><td>日本の高齢者福祉の現状Ⅰ</td><td>：高齢者の心身の特性と福祉施策（介護保険制度と財源）</td></tr><tr><td>第4回</td><td>日本の高齢者福祉の現状Ⅱ</td><td>：少子高齢化社会の現状と諸外国との比較</td></tr><tr><td>第5回</td><td>障がい福祉Ⅰ</td><td>：障がいの概念と支援制度（国際的な障がいの概念と福祉制度）</td></tr><tr><td>第6回</td><td>障がい福祉Ⅱ</td><td>：障がい福祉の理念と制度の変遷（措置から利用契約の流れ）</td></tr><tr><td>第7回</td><td>社会福祉援助技術</td><td>：ソーシャルケースワークの基礎と対象者の心理の理解</td></tr><tr><td>第8回</td><td>障がい者の自立支援と権利擁護</td><td>：自立の概念（自立生活運動を中心に）</td></tr><tr><td>第9回</td><td>児童を取り巻く現状と課題Ⅰ</td><td>：少子化、ジェンダー、児童の保護に関する歴史の変遷</td></tr><tr><td>第10回</td><td>児童福祉法と児童福祉施設</td><td>：社会的養護と施設種別毎の機能と役割・子ども子育て新支援制度について</td></tr><tr><td>第11回</td><td>児童を取り巻く現状と課題Ⅱ</td><td>：児童虐待の現状と防止策（事例を通じて）</td></tr><tr><td>第12回</td><td>知的障がい児施設の現状</td><td>：求められる機能と役割（障がいのボーダレス化を通じて）</td></tr><tr><td>第13回</td><td>対人支援者に求められる資質と援助者観</td><td></td></tr><tr><td>第14回</td><td>社会福祉のあり方と求められる援助者像</td><td></td></tr><tr><td>第15回</td><td>社会福祉の今日的課題</td><td></td></tr></table>							第1回	社会福祉の歴史の変遷	：社会的背景と思想（日本、欧米の社会福祉の歴史）	第2回	社会福祉の現状	：対象とニーズ（公的扶助・児童・高齢者・障がい者施策と社会保障制度）	第3回	日本の高齢者福祉の現状Ⅰ	：高齢者の心身の特性と福祉施策（介護保険制度と財源）	第4回	日本の高齢者福祉の現状Ⅱ	：少子高齢化社会の現状と諸外国との比較	第5回	障がい福祉Ⅰ	：障がいの概念と支援制度（国際的な障がいの概念と福祉制度）	第6回	障がい福祉Ⅱ	：障がい福祉の理念と制度の変遷（措置から利用契約の流れ）	第7回	社会福祉援助技術	：ソーシャルケースワークの基礎と対象者の心理の理解	第8回	障がい者の自立支援と権利擁護	：自立の概念（自立生活運動を中心に）	第9回	児童を取り巻く現状と課題Ⅰ	：少子化、ジェンダー、児童の保護に関する歴史の変遷	第10回	児童福祉法と児童福祉施設	：社会的養護と施設種別毎の機能と役割・子ども子育て新支援制度について	第11回	児童を取り巻く現状と課題Ⅱ	：児童虐待の現状と防止策（事例を通じて）	第12回	知的障がい児施設の現状	：求められる機能と役割（障がいのボーダレス化を通じて）	第13回	対人支援者に求められる資質と援助者観		第14回	社会福祉のあり方と求められる援助者像		第15回	社会福祉の今日的課題	
第1回	社会福祉の歴史の変遷	：社会的背景と思想（日本、欧米の社会福祉の歴史）																																																		
第2回	社会福祉の現状	：対象とニーズ（公的扶助・児童・高齢者・障がい者施策と社会保障制度）																																																		
第3回	日本の高齢者福祉の現状Ⅰ	：高齢者の心身の特性と福祉施策（介護保険制度と財源）																																																		
第4回	日本の高齢者福祉の現状Ⅱ	：少子高齢化社会の現状と諸外国との比較																																																		
第5回	障がい福祉Ⅰ	：障がいの概念と支援制度（国際的な障がいの概念と福祉制度）																																																		
第6回	障がい福祉Ⅱ	：障がい福祉の理念と制度の変遷（措置から利用契約の流れ）																																																		
第7回	社会福祉援助技術	：ソーシャルケースワークの基礎と対象者の心理の理解																																																		
第8回	障がい者の自立支援と権利擁護	：自立の概念（自立生活運動を中心に）																																																		
第9回	児童を取り巻く現状と課題Ⅰ	：少子化、ジェンダー、児童の保護に関する歴史の変遷																																																		
第10回	児童福祉法と児童福祉施設	：社会的養護と施設種別毎の機能と役割・子ども子育て新支援制度について																																																		
第11回	児童を取り巻く現状と課題Ⅱ	：児童虐待の現状と防止策（事例を通じて）																																																		
第12回	知的障がい児施設の現状	：求められる機能と役割（障がいのボーダレス化を通じて）																																																		
第13回	対人支援者に求められる資質と援助者観																																																			
第14回	社会福祉のあり方と求められる援助者像																																																			
第15回	社会福祉の今日的課題																																																			
評 価 方 法	定期試験（70%）、提出課題など（20%）、平素の受講態度など（10%）を加味する。																																																			
教 科 書	使用しない。プリントを中心に進める。 第12回では、支援現場の実際をパワーポイントを使って学習する。																																																			
参 考 書 参考資料等	「保育・教育ネオシリーズ7 社会福祉」阿部寛編著（同文書院）																																																			
備 考	提出物の期限厳守																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																													
相談援助	演習	1	選択	必修		2年・後期	畠 山 明 子																																													
受講する上での注意事項	相談援助で大切なコミュニケーション力は、自覚して身に付けなくてはならない。そのためには、まず、相手の話したいことを話してもらえようように聞くことの重要性を知ることから、皆と話し合うために参加する（話す・伝える・作業する）習慣を意識づけること、仲間と協力し合うことを心がけることが必要である。																																																			
授業の目的・概要	対人援助サービスの仕事に関わる人々には、目の前にいる支援の対象者を尊重する姿勢を持って話に耳を傾け受容すること、専門的な援助関係に基づいて生活上の困りごとを解決していくパートナーとなることが求められる。 この授業は、専門的な援助関係に必要な①自己理解や言語・非言語コミュニケーションなどの基本的姿勢、②バ이스テックの7原則を前提とした面接技法、③相談援助の対象をめぐる現状と課題、④相談援助をおこなう際のプロセスの実際について、講義および演習により理解を深めることを目的とする。 具体的には、①相談援助の基本的技術について（計4回）、②相談援助の対象について（計4回）、③相談援助の過程について（計5回）学習した後、試験の実施によって、相談援助の体系的理解度を確認する。																																																			
到達目標	① 相談援助の考え方を理解する。 ② 相談援助に求められる知識を習得する。 ③ 多様な問題に対応できる対人援助のスキルを身に付ける。																																																			
授業の進め方	テーマに基づいて講義をおこなった後、演習（グループワーク）や映像視聴により、知識を定着させ、活用できるようにしていく。 毎回の講義終了後、リアクションペーパーの提出を求める。																																																			
時間外学修学修上の助言	ニュース等で報道される福祉に関する話題に目を向け、問題の実際を知り、どのような解決が可能なのか、考える力を身に付けること。																																																			
授業計画	<table><tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td><td>： 相談援助とは</td></tr><tr><td>第2回</td><td>相談援助の基本的技術</td><td>： コミュニケーション技法①</td></tr><tr><td>第3回</td><td>相談援助の基本的技術</td><td>： コミュニケーション技法②</td></tr><tr><td>第4回</td><td>相談援助の基本的技術</td><td>： 面接技法①</td></tr><tr><td>第5回</td><td>相談援助の基本的技術</td><td>： 面接技法②</td></tr><tr><td>第6回</td><td>相談援助の対象</td><td>： 高齢者福祉</td></tr><tr><td>第7回</td><td>相談援助の対象</td><td>： 障害者福祉</td></tr><tr><td>第8回</td><td>相談援助の対象</td><td>： 児童福祉</td></tr><tr><td>第9回</td><td>相談援助の対象</td><td>： 地域福祉</td></tr><tr><td>第10回</td><td>相談援助の過程</td><td>： 講義</td></tr><tr><td>第11回</td><td>相談援助の過程</td><td>： 事例検討①</td></tr><tr><td>第12回</td><td>相談援助の過程</td><td>： 事例検討②</td></tr><tr><td>第13回</td><td>相談援助の過程</td><td>： 事例検討③</td></tr><tr><td>第14回</td><td>相談援助の過程</td><td>： 事例検討④</td></tr><tr><td>第15回</td><td>まとめ</td><td></td></tr></table>							第1回	オリエンテーション	： 相談援助とは	第2回	相談援助の基本的技術	： コミュニケーション技法①	第3回	相談援助の基本的技術	： コミュニケーション技法②	第4回	相談援助の基本的技術	： 面接技法①	第5回	相談援助の基本的技術	： 面接技法②	第6回	相談援助の対象	： 高齢者福祉	第7回	相談援助の対象	： 障害者福祉	第8回	相談援助の対象	： 児童福祉	第9回	相談援助の対象	： 地域福祉	第10回	相談援助の過程	： 講義	第11回	相談援助の過程	： 事例検討①	第12回	相談援助の過程	： 事例検討②	第13回	相談援助の過程	： 事例検討③	第14回	相談援助の過程	： 事例検討④	第15回	まとめ	
第1回	オリエンテーション	： 相談援助とは																																																		
第2回	相談援助の基本的技術	： コミュニケーション技法①																																																		
第3回	相談援助の基本的技術	： コミュニケーション技法②																																																		
第4回	相談援助の基本的技術	： 面接技法①																																																		
第5回	相談援助の基本的技術	： 面接技法②																																																		
第6回	相談援助の対象	： 高齢者福祉																																																		
第7回	相談援助の対象	： 障害者福祉																																																		
第8回	相談援助の対象	： 児童福祉																																																		
第9回	相談援助の対象	： 地域福祉																																																		
第10回	相談援助の過程	： 講義																																																		
第11回	相談援助の過程	： 事例検討①																																																		
第12回	相談援助の過程	： 事例検討②																																																		
第13回	相談援助の過程	： 事例検討③																																																		
第14回	相談援助の過程	： 事例検討④																																																		
第15回	まとめ																																																			
評価方法	リアクションペーパーの提出（15回×4点）と試験（40点）で評価します。																																																			
教科書	使用しない。毎回、授業のプリントを配付する。																																																			
参考書 参考資料等	適宜紹介する。																																																			
備考	特に記載事項なし																																																			

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
社会的養護	講義	2	選択	必修		1年・前期	磯 部 ゆかり
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	子どもたちの生活環境は、子どもや家庭、地域社会を取り巻く家族関係や住環境、地域社会の連携などの変化、保護者の就労等の多様化などにより大きく変質してきている。保育士には保育所等における保育活動だけではなく、地域で生活している児童やその家庭問題への対応等が求められることとなり、保育士の専門性の向上が求められている。 保育士として必要な社会的養護に関する学習を進め、社会的養護の実際について理解を深めることを目標とする。						
到達目標	① 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変容について理解する。 ② 社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁護について理解する。 ③ 社会的養護の制度や実施体系について理解する。 ④ 社会的養護における児童の人権擁護および自立支援等について理解する。 ⑤ 社会的養護の現状と課題について理解する。						
授業の進め方	テキストに則り、板書を基本とする。						
時間外学修 学修上の助言	事前にテキストに目を通しておくこと。						
授 業 計 画	第 1 回 保育と社会的養護 : 社会的養護とは何か 第 2 回 児童家庭福祉と社会的養護 : 子どもと家庭 第 3 回 社会的養護の歩み : 歴史と子ども観 第 4 回 こどもの権利 : 子どもの権利のとらえ方 第 5 回 社会的養護にかかわる法令 : 基本法、基本的定義 第 6 回 社会的養護のしくみと実施体系 : 基本的な仕組み、実施体系 第 7 回 施設養護 : 施設養護とは 第 8 回 施設養護の実際Ⅰ : 児童養護系 第 9 回 施設養護の実際Ⅱ : 障がい児系 第10回 施設養護の実際Ⅲ : 治療・行動系 第11回 里親 : 里親制度 第12回 専門職・専門機関 : 専門職の役割 第13回 社会的養護とソーシャルワーク : 基礎知識 第14回 施設の運営管理 : 施設運営のしくみ 第15回 社会的養護の動向 : 保育士の役割						
評価方法	定期試験（70%）、提出物など平常点（30%）、平素の受講態度などを加味する。						
教科書	「学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会『保育と社会的養護原理』大竹智編（みらい） 「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）						
参 考 書 参 考 資 料 等	「基本保育シリーズ 社会的養護」相澤仁・林浩康編（中央法規） 「新プリマーズ保育・福祉 社会的養護」小池由佳編著（ミネルヴァ書房）						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育者論	講義	2	選択	必修	必修	2年・後期	田 崎 栄 子
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育は、一人一人の子どもの人生のスタートに寄り添い、子どものよりよい成長発達を促す営みである。近年複雑な時代を背景にして、保育所（園）や保育者にこれまで以上にその専門性を要求されてきていることから、保育者の仕事内容、具体的な働きを理解し深めていく。						
到 達 目 標	① 保育者の役割と責務について理解を深める。 ② 保育者の制度的位置付けについて理解を深める。 ③ 保育者の協働について理解を深める。						
授業の進め方	授業計画に沿ってプリント、板書、視聴覚機器を活用して授業を進めていく。						
時間外学修 学修上の助言	学修のまとめとしてノートを完成させ、卒業後に活用できる総合力の向上を目指すようにすること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育者とは 第3回 保育士の制度的位置付け 第4回 保育者の資質 第5回 保育者の専門性 第6回 保育者の専門性、倫理性など 第7回～第8回 専門職としてのキャリアアップ、保育者として成長していくために 第9回～第10回 保育者の多様な役割、保護者支援、地域との連携 第11回 保育の展開と自己評価Ⅰ 第12回 保育の展開と自己評価Ⅱ 第13回 事例研究－子どものかかわり、保護者とのかかわり 第14回 現代社会の課題と保育者について 第15回 これからの保育者に求められること						
評 価 方 法	定期試験（80％）レポート・提出物など、平常点（20％）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	必要に応じて適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
心理学Ⅰ	講義	2	選択	必修	必修	1年・前期	佐々木 真 吾
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育・幼児教育にたずさわる者は、人間の心理過程とその発達についての一般的な知識を持つことが求められる。これらの知識は、目の前にいる子ども達を適切に理解するための道具となり、日々の保育・教育の実践に広がりをもたらすといえる。 この授業では、保育・教育実践にかかわる心理学的知識の修得を目指す。とりわけ、生涯発達の視点から、それぞれの心理過程（知覚、認知、言語、感情、学習、社会性）の発達を概観する。						
到達目標	① 保育・教育実践にかかわる心理学の知識を修得する。 ② 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を修得し、子どもへの理解を深める。 ③ 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 ④ 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育・教育との関連を考察する。						
授業の進め方	授業は、配付資料に基づき行う。ファイルがあると望ましい。 毎時間、課題（講義内容のまとめと感想）を課す。						
時間外学修学修上の助言	まずは、授業をしっかり聴き、課題をしっかり提出すること。その中で、自分の興味・関心のある分野を見つけ、自学自習のきっかけにすると良い。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション／子どもの発達を理解することの意義 第2回 子どもの発達理解（１）：身体的機能と運動機能の発達 第3回 子どもの発達理解（２）：知覚と認知の発達Ⅰ－視覚、聴覚、思考の発達 第4回 子どもの発達理解（３）：知覚と認知の発達Ⅱ－記憶の発達 第5回 子どもの発達理解（４）：言葉とコミュニケーション能力の発達 第6回 子どもの発達理解（５）：感情の発達と自我 第7回 他者との関わりと子どもの発達（１）：気質と性格 第8回 他者との関わりと子どもの発達（２）：社会性の発達 第9回 他者との関わりと子どもの発達（３）：アタッチメントの形成 第10回 他者との関わりと子どもの発達（４）：仲間関係の発達と集団理解 第11回 学びのメカニズムと支援（１）：学習とは何か 第12回 学びのメカニズムと支援（２）：動機付け 第13回 生涯発達：青年期からの発達 第14回 保育実践と心理学：発達障害と援助 第15回 まとめ						
評価方法	定期試験（50％）、課題提出および平常点（50％）						
教科書	使用しない。毎時間、プリントを配付する。						
参 考 書 参 考 資 料 等	「シートブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」本郷一夫編著（建帛社） 「幼児・児童の発達心理学」中澤潤監修・中道圭人・榎本淳子編（ナカニシヤ出版） 「保育者養成シリーズ保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」林邦夫・谷田貝公昭監修・谷口明子・西方毅編著（一藝社） その他、授業内で参考図書を通覧紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
心理学Ⅱ	演習	1	選択	必修	選択	2年・後期	佐々木 真 吾
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育・幼児教育にたずさわる者は、一人ひとりの子どもに応じた発達援助を行うことが求められる。そのためには人間の心理過程とその発達についての一般的な知識を獲得すること、子どもの発達を把握するための手法を理解すること、そして、具体的な援助方法を検討するための手法を修得することが求められる。 この授業では、心理学の基礎知識を実践の場で活用する能力の育成を目指す。具体的な援助方法の紹介に加え、グループ活動によるディスカッションとロールプレイを中心に授業を進める。						
到達目標	① 子どもの心身の発達と保育・教育実践についての理解を深める。 ② 保育・教育における発達援助について学ぶ。 ③ 子ども理解のための心理学的手法、ケース検討の方法を修得する。						
授業の進め方	授業は配付資料に基づき行う。ファイルがあると望ましい。 グループワークを主体に演習を進める。実習や、心理学Ⅰの学修を踏まえ、意欲的に参加してほしい。						
時間外学修 学修上の助言	授業外では、子どもに触れる機会を多く持つことが望まれる。その中で体験したことを、授業等で得た心理学的知見から解釈するように心がけると良い。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション／保育計画立案のためのディスカッション（1） 第2回 保育計画立案のためのディスカッション（2） 第3回 保育計画立案のためのディスカッション（3） 第4回 虐待を受けた子どもたちからの聞き取り（1） 第5回 虐待を受けた子どもたちからの聞き取り（2） 第6回 虐待を受けた子どもたちからの聞き取り（3） 第7回 現代家族と子育て支援（1） 第8回 現代家族と子育て支援（2） 第9回 現代家族と子育て支援（3） 第10回 気になる子どもと保護者に対するカウンセリングマインド（1） 第11回 気になる子どもと保護者に対するカウンセリングマインド（2） 第12回 気になる子どもと保護者に対するカウンセリングマインド（3） 第13回 子どもの遊びと学び（1） 第14回 子どもの遊びと学び（2） 第15回 子どもの遊びと学び（3）						
評 価 方 法	提出物（35%）、演習（ディスカッション・ロールプレイ）の参加態度（50%） 平常点（15%）遅刻、欠席、私語、居眠りは減点の対象とする。						
教 科 書	使用しない。適宜資料を配付する。						
参 考 書 参 考 資 料 等	「シートブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」本郷一夫編著（建帛社） 「保育者養成シリーズ保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」林邦夫・谷田貝公昭監修・谷口明子・西方毅編著（一藝社） 「幼児・児童の発達心理学」中澤潤監修・中道圭人・榎本淳子編（ナカニシヤ出版） その他、授業内で参考図書を適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子どもの保健Ⅰ	講義	4	選択	必修		1年・通年	鎌 田 晴 美
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、楽しみながらも規律を守り、乳幼児との関わりの実際をイメージしながら主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育者にとって、子どもの健康と安全の確保は最優先課題である。 本科目では、保育現場において、子ども一人ひとりの心身の状態や発達の過程を踏まえて行う保健的対応及び集団全体の健康と安全について考える。						
到達目標	① 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ② 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。 ③ 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について理解する。 ④ 子どもの精神保健とその課題等について理解する。 ⑤ 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。 ⑥ 施設などにおける子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。						
授業の進め方	教科書と配付プリントを使い授業を進めていく。単元毎におさらいプリントで復習する。また、DVD視聴などの映像を通し、より、講義内容を深める。						
時間外学修 学修上の助言	わからない医療専門用語などは調べ、基本的な知識を受講者各自で学修すること。						
授 業 計 画	第 1 回 第 2 回～第 7 回		授業概要説明 子どもの成長と発達		：科目のガイダンス、子どもの健康と保健の意義 ：生物としての人の成り立ち、子どもの発育と保健、 生理・運動・精神機能の発達と保健		
	第 8 回～第 9 回 第10回～第12回 第13回～第14回 第15回 第16回～第19回		子どもの精神保健 子どもの保育環境 子どもの食 前期まとめ 子どもの疾病と保育		：子どもの生活環境と精神保健、心の健康や行動の問題 ：保育環境整備、衛生管理、安全対策・危機管理 ：栄養生理、乳児期の食、幼児期の食 ：健康状態の把握、主な症状の見かたと対応、 主な疾病の特徴		
	第20回 第21回～第23回 第24回 第25回 第26回～第27回 第28回～第29回 第30回		子どもの疾病と保育 感染症 子どもの疾病の予防 障害のある子どもたち 救急処置について 母子保健 後期まとめ		：アレルギー疾患 ：感染経路、ウイルス・細菌・その他の感染症と対策 ：予防接種、感染症対策 ：ダウン症候群、脳性麻痺、発達障害 ：心肺蘇生、救急処置、誤嚥・誤飲など ：保育所と家庭の連携、母子保健対策、児童虐待防止		
評 価 方 法	定期試験（60％）、平常点（40％）課題提出物・平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	「子どもの保健－理論と実際－」 巷野悟郎・岩田力・前澤真理子編著（同文書院）						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子どもの保健Ⅱ	演習	1	選択	必修		2年・前期	工 藤 美佐子
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、楽しみながらも規律を守り、積極的に学ぶ意識を持って受講すること。						
授 業 の 目的・概要	① 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。 ② 子どもの健康増進及び心身の発達・発育を促す保健活動や環境を考える。 ③ 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。 ④ 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。 ⑤ 現代社会における心の健康問題や地域保健活動などについて理解する。						
到 達 目 標	① 子どもの成長・発達が日々の生活・環境とかかわっていることを理解できる。 ② 保健活動における知識を修得することができる。 ③ 演習により正しい保健技術を身に付ける。						
授業の進め方	教科書と資料のプリントを用い、理論を説明した後に演習を行う。						
時間外学修学修上の助言	講義で学んだ内容を学外実習先で確認するなど、各自が学修をより深めることを望む。						
授 業 計 画	第 1 回 授業概要説明 : 子どもの保健Ⅱの科目・授業内容と単位と評価 保健活動の計画及び評価Ⅰ : 保健計画作成と活用、記録と自己評価 第 2 回 保健活動の計画及び評価Ⅱ : 健康状態の観察とその評価(身体の状態、体温、呼吸、脈拍、便など) 第 3 回 保健活動の計画及び評価Ⅲ : 身体発育の測定方法とその評価 保育における健康管理と衛生管理 第 4 回 子どもの保健と環境Ⅰ : 子どもの保育環境、生活習慣と心身の健康(乳児の寝かせ方、寝具、抱き方、おんぶ)、衣服の着脱、SIDS 第 5 回 子どもの保健と環境Ⅱ : 食事行動の発達と食事習慣(調乳・授乳)、育児用品の選択と使用上の注意 第 6 回 子どもの保健と環境Ⅲ : 排泄習慣の自立、オムツの種類と使い方、歯みがきの仕方 第 7 回 子どもの保健と環境Ⅳ : 清潔習慣の自立、身体の清潔 第 8 回 子どもの疾病と適切な対応Ⅰ : 手指の清潔、感染症の予防と対策、ワクチン、感染症が発生した時の措置 第 9 回 子どもの疾病と適切な対応Ⅱ : 障がいのある子どもへの対応、個別的な配慮を必要とする子ども 第10回 事故防止及び健康安全管理Ⅰ : 子どもの事故の特徴、事故の予防、事故の発生要因、薬の与え方 第11回 事故防止及び健康安全管理Ⅱ : 症状に対する看護、保育における看護と応急処置 第12回 事故防止及び健康安全管理Ⅲ : 保育における看護と応急処置(包帯法、三角巾) 第13回 事故防止及び健康安全管理Ⅳ : 災害への備えと危機管理、子どもの養育環境、地域保健活動 心と体の健康問題と地域保健活動 第14回 事故防止及び健康安全管理Ⅴ : 普通救命講習Ⅰ ~第15回						
評 価 方 法	定期試験(60%)、平常点(40%) 課題提出物、平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	「最新 保育保健の基礎知識」荖野悟郎著(日本小児医事出版社)						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
子どもの食と栄養	演習	2	選択	必修	必修	1年・前期	藤 本 真奈美
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、保育の現場をイメージしながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	子どもの栄養と食生活は、生涯にわたる健康と生活の基盤であり、小児期の食生活がその後の心と体の健康に大きな影響を及ぼす。この時期の発育・発達には著しく、各段階に応じた健全な成長、発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から学ぶとともに、現代における子どもを取り巻く問題点を把握し施設での対応、子どもと保護者への支援方法について学ぶ。 食育の計画、実践のため、調理の基礎を学び、小児用の調理器具の扱いや指導方法についても学ぶ。						
到 達 目 標	① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を修得する。 ② 子どもの発育・発達と食生活を関連させて考察できる。 ③ 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会や文化とのかかわりと関連させて考察できる。 ④ 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解できる。						
授業の進め方	授業毎にテーマに沿った講義、その内容についての演習課題への取り組みと実践を行う。 また、絵本やDVDなどの視聴覚教材や衛生チェック機器などを用い、より講義内容を深める。						
時間外学修学修上の助言	予習復習に努め、学修のまとめとしてテキストの演習課題を完成させ、卒業後に活用できる総合力の向上を目指すようにすること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どもの健康と食生活の意義						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
家庭支援論	講義	2	選択	必修		2年・後期	磯 部 ゆかり
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	「保育指導」という役割を担うため、子どもの背景にある家族関係の変遷や状況、必要とされている支援、そのための基本的技術、地域の社会資源の知識と連携の重要性について考える。						
到達目標	① 家庭の意義とその機能について理解する。 ② 子育て家庭を取り巻く社会的状況などについて理解する。 ③ 子育て家庭の支援体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関の連携について理解する。						
授業の進め方	教科書に則り、必要に応じて具体的事例を提示をしながら授業を進める。						
時間外学修 学修上の助言	新聞報道などに関心を持ち、現在の社会状況を日々把握することに努めること。						
授 業 計 画	第1回 家庭支援の必要性 第2回 家族と家庭 第3回 子育て家庭を取り巻く社会環境 第4回 子育てを通じた親・家族の発達 第5回 子育て家庭支援施策の経緯・現状・展望 第6回 子育て家庭支援のための社会資源 第7回 保育者による家庭支援の基本 第8回 家庭支援における保育者の基本姿勢・専門性 第9回 保育所等在籍児の家庭支援 第10回 地域の子育て家庭への支援 第11回 発達のつまずき、障害のある子どもの家庭支援 第12回 子ども虐待への対応 第13回 さまざまな家庭への支援 第14回 諸外国における子育て支援 第15回 これからの子育て家庭への支援の課題と展望						
評価方法	定期試験（70%）、提出物など平常点（30%）、平素の受講態度などを加味する。						
教科書	「新・プリマーズ保育、福祉 『家庭支援論』 高辻千恵編著（ミネルヴァ書房） 「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）						
参 考 書 参 考 資 料 等	「学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 『保育と家庭支援』 上田衛編（みらい） 「実践 家庭支援論」 松本園子著（ななみ書房）						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																																
保育・教育課程論	講義	2	選択	必修	必修	1年・前期	工 藤 勉																																																
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。																																																						
授 業 の 目的・概要	保育の場としての保育所（園）、幼稚園や認定こども園は、子どもに適切な環境を用意して、心身ともに健全な発達を促し、保障する役割を担っている。そこでは、子ども一人ひとりの年齢や発達段階にふさわしい活動を用意し、子ども自らが主体的に活動し、人とのかかわることができる環境の構成が求められる。しかし、子ども自らの主体的な活動といっても、それぞれの興味や関心に基づき気の向くままに活動するのではなく、保育者の方向性や考え方に沿った活動に子どもを導いていくことが重要である。そこで、内容を時系列に沿って配列した指導の全体計画が必要になる。 ここでは、保育所保育指針、幼稚園教育要領や認定こども園教育・保育要領のねらいや内容を活動として計画的・意図的に準備する具体としての指導計画案の作成を通して、保育者としての姿勢や心構えを身に付けていくことを目指している。																																																						
到達目標	① 教育課程の意義や場に応じた教育計画の必要性について理解し、日常の園生活との関連性を捉えることができる。 ② 保育教育課程と日常の保育活動のかかわりを捉え、保育計画の作成について具体的に理解する。 ③ 計画・実践・評価・改善の過程についてその全体構造を能動的に捉え、理解する。																																																						
授業の進め方	保育園、幼稚園や認定こども園の現場との関連を図りながら授業を進めていく。 必要に応じて、資料プリントを配付し、授業を進める。																																																						
時間外学修 学修上の助言	学んだことから、具体的な場面を想定し、現場で活かせるように心がける。																																																						
授 業 計 画	<table><tr><td>第1回</td><td>保育カリキュラムの基礎理論</td><td>：保育カリキュラムの意義と必要性、変遷と特性</td></tr><tr><td>第2回</td><td>保育カリキュラムの構造</td><td>：保育カリキュラム編成の前提、基盤、指導計画</td></tr><tr><td>第3回</td><td>教育カリキュラムの法的根拠</td><td>：教育基本法、学校教育法、教育要領等の変遷</td></tr><tr><td></td><td>幼稚園の教育課程</td><td>：教育課程のあり方、編成、評価</td></tr><tr><td>第4回</td><td>保育所・認定こども園の保育計画</td><td>：保育計画の基本、子どもの発達と保育内容、健康安全と保育計画</td></tr><tr><td>第5回</td><td>教育課程編成の要件、手順</td><td>：教育課程の基本、進め方、編成の手順</td></tr><tr><td>第6回</td><td>保育計画の種類と内容</td><td>：長期、短期の願いと必要性、個別的教育課程</td></tr><tr><td>第7回</td><td>長期の指導計画</td><td>：園生活と長期の指導計画、指導計画の作成の仕方</td></tr><tr><td>第8回</td><td>短期の指導計画Ⅰ</td><td>：短期指導計画の意義、作成、活用</td></tr><tr><td>第9回</td><td>短期の指導計画Ⅱ</td><td>：短期指導計画の作成手順と考え方「週案」「日案」の作成</td></tr><tr><td>第10回</td><td>保育の計画と評価</td><td>：実践と観点表、自己評価</td></tr><tr><td>第11回</td><td>幼・保・小の連携カリキュラム</td><td>：幼・保・小の連携に向けての課題、カリキュラムの実際</td></tr><tr><td>第12回</td><td>子育て支援とカリキュラム</td><td>：地域の子育てセンターとしての園の役割</td></tr><tr><td>第13回</td><td>危機管理保育のカリキュム</td><td>：意義と必要性、事故・災害のカリキュラム</td></tr><tr><td>第14回</td><td>特別支援カリキュラム</td><td>：特別支援の現状と課題、カリキュラム</td></tr><tr><td>第15回</td><td>今後の課題</td><td>：カリキュラムの創造・挑戦</td></tr></table>							第1回	保育カリキュラムの基礎理論	：保育カリキュラムの意義と必要性、変遷と特性	第2回	保育カリキュラムの構造	：保育カリキュラム編成の前提、基盤、指導計画	第3回	教育カリキュラムの法的根拠	：教育基本法、学校教育法、教育要領等の変遷		幼稚園の教育課程	：教育課程のあり方、編成、評価	第4回	保育所・認定こども園の保育計画	：保育計画の基本、子どもの発達と保育内容、健康安全と保育計画	第5回	教育課程編成の要件、手順	：教育課程の基本、進め方、編成の手順	第6回	保育計画の種類と内容	：長期、短期の願いと必要性、個別的教育課程	第7回	長期の指導計画	：園生活と長期の指導計画、指導計画の作成の仕方	第8回	短期の指導計画Ⅰ	：短期指導計画の意義、作成、活用	第9回	短期の指導計画Ⅱ	：短期指導計画の作成手順と考え方「週案」「日案」の作成	第10回	保育の計画と評価	：実践と観点表、自己評価	第11回	幼・保・小の連携カリキュラム	：幼・保・小の連携に向けての課題、カリキュラムの実際	第12回	子育て支援とカリキュラム	：地域の子育てセンターとしての園の役割	第13回	危機管理保育のカリキュム	：意義と必要性、事故・災害のカリキュラム	第14回	特別支援カリキュラム	：特別支援の現状と課題、カリキュラム	第15回	今後の課題	：カリキュラムの創造・挑戦
第1回	保育カリキュラムの基礎理論	：保育カリキュラムの意義と必要性、変遷と特性																																																					
第2回	保育カリキュラムの構造	：保育カリキュラム編成の前提、基盤、指導計画																																																					
第3回	教育カリキュラムの法的根拠	：教育基本法、学校教育法、教育要領等の変遷																																																					
	幼稚園の教育課程	：教育課程のあり方、編成、評価																																																					
第4回	保育所・認定こども園の保育計画	：保育計画の基本、子どもの発達と保育内容、健康安全と保育計画																																																					
第5回	教育課程編成の要件、手順	：教育課程の基本、進め方、編成の手順																																																					
第6回	保育計画の種類と内容	：長期、短期の願いと必要性、個別的教育課程																																																					
第7回	長期の指導計画	：園生活と長期の指導計画、指導計画の作成の仕方																																																					
第8回	短期の指導計画Ⅰ	：短期指導計画の意義、作成、活用																																																					
第9回	短期の指導計画Ⅱ	：短期指導計画の作成手順と考え方「週案」「日案」の作成																																																					
第10回	保育の計画と評価	：実践と観点表、自己評価																																																					
第11回	幼・保・小の連携カリキュラム	：幼・保・小の連携に向けての課題、カリキュラムの実際																																																					
第12回	子育て支援とカリキュラム	：地域の子育てセンターとしての園の役割																																																					
第13回	危機管理保育のカリキュム	：意義と必要性、事故・災害のカリキュラム																																																					
第14回	特別支援カリキュラム	：特別支援の現状と課題、カリキュラム																																																					
第15回	今後の課題	：カリキュラムの創造・挑戦																																																					
評 価 方 法	確認テスト2回（70%）、平常点（30%） 課題提出・発表・受講態度などを加味する。																																																						
教 科 書	「保育所保育指針」厚生労働省編（フレーベル館）、「幼稚園教育要領」文部科学省編（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省編（フレーベル館）																																																						
参 考 書 参考資料等	「教育課程・保育過程を学ぶ」松村和子・近藤幹生・椋島香代著（ななみ書房） 「保育過程・教育課程総論」柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ編（ミネルヴァ書房）																																																						
備 考	提出物の期限厳守																																																						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育内容総論	演習	1	選択	必修	必修	2年・前期	中 村 章 子
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	1 保育内容の考え方についての基本を理解する。 2 保育内容の歴史的変遷を知り、社会の変化と保育内容はどのように変わってきたのか、また、過去の保育内容と現在のそれがどのように関係しているのかについて理解する。 3 各領域毎の指導・援助を事例毎に学び、配慮・留意すべき点について理解し、総合的な指導・援助に活かす。 4 乳幼児の発達・遊び・生活と保育内容のかかわりについて理解し、幅広い技術を修得する。						
到達目標	① 保育所保育指針の「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容の基本を理解する。 ② 幼児期の発達段階に関する五領域の目的、ねらいを理解し、保育内容の計画への見通しができる。 ③ 保育の多様な展開について学び、指導計画の考え方を理解し、保育技術を修得する。						
授業の進め方	技術力向上のために保育所保育指針と結びつけ、事例から学ぶ。						
時間外学修 学修上の助言	予習をして教科の内容を深く理解できるようにすること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育内容の構造 第3回 日本における保育内容の変遷 第4回 保育所・幼稚園の一日の流れと遊びや生活について 第5回 「保育所保育指針」にみる保育内容の捉え方 第6回 幼稚園教育要領にみる保育内容 第7回 「五領域」とは何か 第8回 事例で学ぶ「領域」健康と保育内容 第9回 事例で学ぶ「領域」人間関係と保育内容 第10回 事例で学ぶ「領域」環境と保育内容 第11回 事例で学ぶ「領域」言葉と保育内容 第12回 事例で学ぶ「領域」表現と保育内容 第13回 事例で学ぶ「年齢と保育内容」 第14回 保育の内容を深める遊びや文化財 第15回 講義のまとめ						
評価方法	定期試験（70%）、平常点（30%）平素の受講態度などを加味する（提出物等）。						
教科書	「保育所保育指針」厚生労働省編（フレーベル館）、「幼稚園教育要領」文部科学省編（フレーベル館）						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
健康（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	1年・後期	稲垣 彰
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	幼児期における健康な生活習慣の確立は、児童期、青年期へと成長発達していくための基礎がつけられる大切な時期である。 子どもたちが自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養い、身に付けていくように、保育者としてどのようなかわりができるかを考察し、実践的な知識と技術の基礎を修得することをねらいとする。						
到達目標	保育所保育指針、幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある内容、特に「健康」についての記載についてその趣旨を理解し、多様性を前提とした子どもとのかかわりの必要性を知る。						
授業の進め方	板書及び講義により授業を進めていく。						
時間外学修学修上の助言	座学で学ぶものと同じように実際の「子ども」から学ぶことも重要と考える。ボランティアなど自ら積極的に「子ども」のいる場所に身を置き、学修においては「教師としてどのように対応するか」をイメージしながらの受講を期待する。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション（授業計画、授業のねらい、評価など） 第2回 領域「健康」のねらい、内容 第3回 幼稚園・保育所・認定こども園の領域「健康」のねらい、内容 第4回 幼児期の身体の発達 第5回 体力・運動能力の発達 第6回 幼児期の精神の発達：知覚、情緒、パーソナリティ 第7回 幼児期の生活習慣：食事、睡眠 第8回 幼児期の生活習慣：排泄、着衣、清潔 第9回 保育所における実践・交流 第10回 幼児期の安全能力と保育者の「安全」についての考え方 第11回 園外保育や行事等での安全と配慮すべき事項 第12回 安全に関する指導の実際① 第13回 安全に関する指導の実際② 第14回 運動遊びの実践作り 第15回 まとめ						
評価方法	確認テスト（70%）、平常点（30%） 欠席、グループ発表の基準に達しないもの、授業態度などをテストの素点から減点する。						
教科書	「保育所保育指針」厚生労働省編（フレーベル館）、「幼稚園教育要領」文部科学省編（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省編（フレーベル館）						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
人間関係（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	1年・後期	工 藤 勉
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	現代社会において「人間関係」の希薄さが指摘されている。保育所（園）、幼稚園や認定こども園は、子どもが安心して生活できる場でなければならない。また、子どもが身近な「もの」「人」「こと」と出会い、かかわりあいながら学び、成長していく場である。 ここでは、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている「人間関係」の内容を吟味しながら保育所（園）、幼稚園や認定こども園が、子どもにとって居心地のよい場所と感ぜられるための要素を探っていく。 更に、実際の場面を想定しながら、子どもと共に生活する保育者のあり方や保育者としての資質に気づき、それを高める機会となることを目標としている。						
到達目標	① 時代の変遷を押さえ、良好な人間関係の必要性和、作り上げていくための方策を理解する。 ② 保育指針・教育要領や認定こども園教育・保育要領の内容を捉え、人間関係を深めていくための模擬実践を行うことができる。 ③ 事例を基に保育士として、どう行動すべきかを理解し、総合的な知識・技術・判断力を修得する。						
授業の進め方	講義とともに、具体的な事例への対応、実践場面を想定した計画案の作成、実技演習を行う。						
時間外学修 学修上の助言	子どもたちに触れる機会を多く持ち、保育者としての行動を高めていく。						
授 業 計 画	第1回 人間関係とは何か 第2回 現代社会における人間関係 第3回 発達段階から見た人間関係 第4回 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容 第5回 環境構成から見た人間関係 第6回 発達を支えるもの 第7回 モデルとしての保育者 第8回 実践演習Ⅰ 第9回 実践演習Ⅱ 第10回 実践演習Ⅲ 第11回 集団の意味 第12回 依存から自立へ 第13回 統合保育における人間関係 第14回 企画表作り 第15回 職場の人間関係						
評価方法	確認テスト2回（60％） 実践演習（10％）指導案に基づいた実践への取り組み 平常点（30％）演習課題への取り組み、平素の受講態度などを加味する。						
教科書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	「保育内容人間関係」徳安敦編著（青踏社） 「保育内容人間関係」酒井幸子編著（萌文書林） 「保育所保育指針」厚生労働省編（フレーベル館） 「幼稚園教育要領」文部科学省編（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省編（フレーベル館）						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
環境（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	西 博 志
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 学生には授業内容に応じて事前に必要な用具を指示する。 積極的な意見交換等のある授業とする。						
授 業 の 目的・概要	幼児期は、実体験を基礎に自然を五感で理解する時期であり、自然に触れて遊んだ基礎体験があってこそ、自然を大切に思う気持ちが大人になった時に環境を考える原動力につながっていく大事な時期である。 自然あそびの楽しさ、不思議さをまずは保育者が体感し、自然の中にある様々な色や質感の違いに気づき、造形表現を豊かにする知識や感性を養う援助の仕方を学ぶ。 ① 子どもたちをとりまく環境について学ぶ。 ② 子どもたちが身近な環境に積極的にかかわるための方策を学ぶ。 ③ 子どもたちが環境を創造する力を育成する方策を学ぶ。 ④ 子どもたちを問題のある環境から守るための知識と技術を学ぶ。 ⑤ 子どもたちをとりまく環境をコントロールすることを学ぶ。						
到 達 目 標	① 子どもたちをとりまく環境を理解する。 ② 子どもたちが身近な環境に様々なかたちで接していることを理解する。 ③ 子どもたちは成長の過程で環境に様々な働きかけていることを理解する。 ④ 子どもたちが生活する環境を整える知識と技術を身に付ける。						
授業の進め方	自然素材の種類や特徴を五感で感じ取り、自然の美しさや面白さを見つけることに重点を置き、身近にある自然物を使ってどんな遊びや工作ができるか、用具の使い方、注意すべき点を考えながら授業を進める。各回毎に、テーマを設定し考察をする。また、取り扱う素材についての認識を深めるようにする。						
時間外学修学修上の助言	日常の自然の変化に敏感に反応する眼と心を養い、将来の保育の生活の場で子ども達とどのような方法で共感できるかをイメージできるようにするとともに、日頃から、身の回りの事柄に関心をよせ意識することの必要性について助言する。						
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
言葉（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	高 橋 晶 子
受講する上での注意事項	積極的に発言や発表を行い、自己を表現すること。						
授 業 の 目的・概要	人はコミュニケーション能力を備えて生まれ、その後まわりの人々とのやりとりを通して言葉を獲得していく。しかし、近年、電子機器の発達によりことばの貧困現象が起きていると言われている。この授業では、子どもたちの豊かな言葉をはぐくむために必要な理論と実践を共に学んでいきたい。						
到達目標	① 言葉とは何か、その機能、役割を知る。 ② 言葉の発達過程を学び、養育者との関係の重要性を理解する。 ③ 児童文化財や言葉あそびの実践。						
授業の進め方	資料はプリントを配付する。						
時間外学修学修上の助言	児童文化財については、常日頃、絵本などに接し、自らの感性を高めてほしい。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 言葉の機能 第3回 言葉以前の発達 第4回 言葉の発達過程Ⅰ 第5回 言葉の発達過程Ⅱ 第6回 言葉の障害Ⅰ 第7回 言葉の障害Ⅱ 第8回 領域「言葉」のねらいと内容 第9回 0・1・2・3歳児と保育者のかかわり 第10回 4・5歳児の活動と保育者のかかわり 児童文化財Ⅰ パネルシアター 第11回 児童文化財Ⅱ 絵本 第12回 0～3歳児の発達と絵本 第13回 4・5歳児の発達と絵本 第14回 児童文化財Ⅲ 紙芝居 第15回 まとめ						
評価方法	定期試験（60%）、平常点（40%） 平素の受講態度、提出物、発表などを加味する。						
教科書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	「子どもとことば」岡本夏木著（岩波新書）、「絵本論」瀬田貞二（福音館書店） 「改訂子どもと言葉」岡田明編著（萌文書林）						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
表現（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	藤本真奈美・鎌倉 亮太 阿部 裕子
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には、「表現」領域として、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることが目的に掲げられている。子どもは環境とのかかわりの中で抱いた様々な気持ちや気づきを友だちや保育者に伝えようとし、それらを自分なりに表現しようという「意欲」を育んでいく。そして、その中で、様々な体験を通してイメージを豊かにし、表現することの喜びや表現を楽しむ「態度」を培っていく。本授業では、保育者として、以上に掲げられた目的を子どもが達成できるようどのようなかかわりをすべきか、その方法を学ぶことを目的とする。						
到達目標	本講義は、大きく分類すると、「音楽」「造形」「食育」の3つの内容から構成される。「音楽」では実際に子どもの側に立ち、音楽の表現遊びの実技を通して、自己の表現力を養うとともに、指導法の修得を目指す。「造形」では、保育の現場で活用される様々なシアターに焦点をあて、制作の仕方や演じ方を学ぶ。演じる中で、様々な表現方法を学び、感性と豊かさを育むことを目指す。「食育」では、実際の保育所や幼稚園で行われる行事食に焦点を当て、日本の食文化を伝えとともに、食事の味や香りなど、その心地よさを感じ、子どもと保育者が一緒にそれらの感覚を楽しむための知識・技術を修得する。						
授業の進め方	15回の授業を「音楽」「造形」「食育」の3つの分野に分け、分野ごとに進めていく。						
時間外学修 学修上の助言	2年次後期の開講であることから、学外実習等での学びを振り返っておく。また、図書館や情報機器等を活用して関連のある情報を積極的に収集し、授業の資料とともにファイル等に整理し、実践の場で活用できるようにまとめておくことよい。						
授 業 計 画	第 1 回 音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅰ						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
乳児保育	演習	2	選択	必修	選択	2年・通年	阿 部 喜代子
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	乳児保育の制度及び乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解させる。また、乳児期の子どもへの大人のかかわり方について考え、その重要性を認識し学修する。						
到 達 目 標	① 乳児保育の基本を理解し、援助のあり方について考える。 ② 乳児保育の計画作成の実際と記録評価について理解する。 ③ 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。						
授業の進め方	講義を中心とし、必要な資料はプリントで示す。また、保育の様々な場面を理解する上で演習及びDVDを視聴することにより授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	講義を通じて関心を抱いたテーマについては、文献などにあたり自主学修をすること。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 乳児保育について（乳児保育とは・乳児保育の現状と課題） 第4回～第5回 乳児と保育園の一日 第6回～第7回 おおむね6ヶ月未満の保育 第8回～第10回 おおむね6ヶ月から1歳3ヶ月未満の保育 第11回～第13回 おおむね1歳3ヶ月から2歳未満の保育 第14回～第15回 おおむね2歳の保育 第16回～第17回 乳児保育の環境 第18回～第19回 乳児保育における保健活動 第20回～第22回 保育の計画（指導計画の作成） 第23回～第24回 乳児保育と連携 第25回～第26回 家庭における子育て 第27回～第28回 保育所における育児支援 第29回～第30回 乳児保育の未来・まとめ						
評 価 方 法	定期試験（60％）レポート・提出物など、平常点（40％）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	「やさしい乳児保育」早川悦子・池田りな・伊藤輝子（青踏社）						
参 考 書 参 考 資 料 等	「乳児の生活と保育」（みなみ書房） 「保育所保育指針」厚生労働省編（フレーベル館）						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
障がい児保育	演習	2	選択	必修	必修	2年・通年	武 田 春 人
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	障がい児保育の対象となる発達障害児は年々増加している。それに伴い児童発達支援事業（旧児童デイサービス）の数は札幌市においては300か所を超えている。保育所や幼稚園においても障がい児（とりわけ発達障害児）に対する支援は喫緊の課題となっている。本講では北海道における児童精神科医療や教育、保健福祉を概観しつつ、児童精神科での症例及び児童発達支援センターや保育所に通う子ども達の紹介を通して発達障害児等の支援に関わる知見を概説する。						
到達目標	① 自閉症スペクトラムやADHD等の発達障害児に関する理解を深める。 ② 家族支援について理解を深める。 ③ 子どもの発達について理解を深め、子どもの人権尊重の意識を高める。						
授業の進め方	障がい児保育に関する基礎的な知見については資料や映像を元に授業を進める。並行して、市内の保育園で毎週行っている障がい児保育巡回指導の事例を紹介し、グループワークなどの演習を行う。さらに、乳幼児期から成人期までの発達障がいの人への支援について概観する。						
時間外学習上の助言	保育や障がい児の現状に関して、メディアやインターネットを通して知識を得ること。障がい児保育の現状と課題について自分なりの問題意識を持つこと。						
授 業 計 画	第1回 障がい児保育とは（オリエンテーション） 第2回～第3回 子どもの精神医学的理解 第4回 障がい児理解 乳幼児健診 子どもの発達 第5回～第6回 心の理論 アタッチメント 第7回～第10回 発達障害の診断と支援 児童期のSST 障がい児保育巡回指導 第11回 重症心身障がい児施設 肢体不自由児施設 第12回～第14回 知的障がい児施設 視覚障害 聴覚障害 発達支援とアセスメント 発達障害と虐待① 第15回 発達障害と虐待② 前期のまとめ 第16回～第17回 ADHD ダウン症 第18回～第19回 保育の実践 ①集団参加 ②社会生活能力 第20回～第21回 家族支援①② 第22回～第23回 家族支援③④ 第24回～第25回 就学に向けて 関連機関連携 障がい者の人権 第26回～第27回 青年期の自閉症 青年・成人期のSST 第28回～第29回 強度行動障害 第30回 災害と障がい児 後期のまとめ						
評価方法	定期試験（80%）、平常点（20%）、出席状況を加味する。						
教科書	使用しない						
参考書 参考資料等	「自閉症スペクトラムと特別支援教育」山崎晃資編著（金剛出版） 「障害児保育」鯨岡峻編（ミネルヴァ書房）						
備考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
社会的養護内容	演習	1	選択	必修		1年・後期	斉 藤 晋
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、楽しみながら規律を守り、授業中の私語はしないで積極的に学ぶ意識を持って受講すること。 演習科目などで授業中に行われるグループワーク等、積極的に参加すること。						
授 業 の 目的・概要	社会福祉施設の中でも子どもや家庭の支援を目的として設置されている施設に児童福祉施設がある。児童福祉施設で取り組まれている養護活動は、児童には家庭に代わる「生活の場」としての養育支援を得るために大切な環境であり、国の責任において実施される「きわめて責任の重い養護活動」である。児童福祉施設で実践されるケアワークは保育士や児童指導員などの支援担当職員を中心に行われており、保育士には児童養護に関する知識や実践が求められる。保育士として必要な「社会的養護内容」の学修を進め、子どもたちの生活を支えるために不可欠である社会的養護の実際について理解を深めることを目的とする。						
到 達 目 標	① 要保護児童の多くを占める児童虐待について詳しく学ぶ。 ② 保育士として被虐待児童の対応を学ぶ。 ③ 児童虐待をしてしまう保護者の心理と対応を学ぶ。 ④ 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について学ぶ。 ⑤ 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。						
授業の進め方	授業はプロジェクターを使って行う。授業の中で、理解度を把握するため小テスト、感想等を書かせる。 穴埋め式のレジュメを配付し、重要な事柄を学生と一緒に埋めながら進める。						
時間外学修学修上の助言	配付されたレジュメは、ファイリングするなど自己管理をすること。 定期試験、小テストに向け、復習をしっかりと行うこと。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 社会的養護内容を学ぶ意味 第2回 被虐待児童の心理と対応 第3回 児童虐待が及ぼす発達への影響～児童虐待と発達障害／児童虐待は第四の発達障害 第4回 児童虐待と解離性障害～事例を通して 第5回 ①児童虐待死亡事故事例～事例を通して／児童虐待ケースへの対応（演習） 第6回 ②児童虐待死亡事故事例～事例を通して／児童虐待ケースへの対応（演習） 第7回 施設内虐待～現状と施設内虐待に陥らないために 第8回 自立支援計画表の作成について 第9回 演習～児童自立支援計画書の作成 第10回 子どもの貧困の現状 第11回 児童虐待と子どもの貧困の関連性 第12回 里親制度について 第13回 施設の小規模化～家庭的養護の推進と課題 第14回 定期試験対策 第15回 まとめの授業						
評 価 方 法	定期試験（50%）、出席・受講態度（30%）、提出物・小テスト（20%）						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	授業時に適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育相談支援	演習	1	選択	必修	選択	2年・前期	阿 部 裕 子 ほか
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	「保育支援」とは、専門性を有する保育者が、安定した親子関係、養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談・助言・支援などを意味する。 「保育者の専門性」についての理解を深め、保護者に対する支援の在り方を学ぶことを目的とする。						
到 達 目 標	① 保育相談支援の意義と原則について理解する。 ② 保護者支援の基本を理解する。 ③ 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 ④ 保育所等児童福祉施設における子ども、保護者支援の実際について理解する。						
授業の進め方	事例を中心に授業を進め、演習課題を通して理解、考え方を深めていく。						
時間外学修 学修上の助言	保育者自身が支援を行う際のいわば道具であり、技術であることを理解し、日常生活の中で自身の言葉づかい、所作に意識を向けること。						
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
音楽Ⅰ	演習	2	選択	必修	必修	1年・通年	相 本 美和子 ほか
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	保育者（保育士・幼稚園教諭）として必要なピアノ奏法の修得を目的とする科目である。小人数グループで構成され、基本的には個人個人のグレードに応じた個人レッスンの形態で進められる。ピアノという楽器の持つ様々な機能や、指・腕・姿勢など演奏に必要な身体の動き、更には運指や暗譜などを実践しながら学ぶ。また、基本的な楽典の知識にも触れながら、音楽の素晴らしさと技能・技術の重要性を認識することも主眼としている。						
到達目標	① ブルグミュラー 25の練習曲以上のレベルを修得する。 ② 教本の弾き歌い曲の暗譜による演奏ができる。						
授業の進め方	前期の授業内容は、バイエル、ブルグミュラー 25の練習曲、ソナチネ等の教本を中心に個人の進度に合わせたレッスンを行う。前期実技試験以降は、教本と併用して「こどものうた」の弾き歌いを学ぶ。						
時間外学修学修上の助言	ピアノの習熟度は就職などの進路に大きな影響を及ぼすこともあり、初心者では毎日1時間の練習が望ましいが、それ以外の学生も、日々の練習を積み重ねて授業に臨んでほしい。						
授 業 計 画	第1回 音楽歴の調査、保育者としてのピアノの意義の説明 第2回～第13回 個人のレベルに合った教則本を選定し、毎回学生の能力に合わせて2～3曲の課題曲を宿題として課す。授業では、宿題の曲を題材にして、以下のことを身に付けさせる。 ● ピアノ奏法の基本的技術と知識 1) ピアノの技能と基本的奏法について 2) 姿勢・腕・指等身体的動き ● 読譜力や基本的楽典の知識 1) リズムの読み取りとリズム感 2) 強弱・速度など記号の理解と実践 3) 基本的な調と鍵盤の位置関係 第14回 後期から行う弾き歌いの概要説明（弾き歌い表の配付）、夏休みの宿題の掲示 第15回 バイエル、ブルグミュラー、ソナチネ以上の中から1曲を演奏する実技試験 第16回～第29回 前期の試験の反省を生かし、引き続き教則本の中から課題曲を決定し、宿題として課す。それに加え配付済みの弾き歌い表の中の課題から1～2曲を選曲し、毎回の課題として、併せて宿題に課す。つまり教則本と弾き歌いの両方の題材を扱い、次のことを身に付けさせる。 ● 表現豊かな演奏を目指し、自己の感性を磨く 1) 美しいピアノの音やフレーズ感などを感じ取る。 2) 表現する力を養う。 ● 幼児教育に即した弾き歌いの実践 1) 聞き取りやすい明瞭な声、発音の仕方 2) 正確な音程 3) 歌とピアノの同時進行 第30回 ブルグミュラー、ソナチネ以上の中から1曲、更に任意の2曲を弾き歌いする実技試験						
評価方法	定期試験（90％）提出課題など、平常点（10％）平素の受講態度などを加味する。						
教科書	「標準バイエルピアノ教則本」（全音楽譜出版社）、「ブルグミュラー 25の練習曲」（全音楽譜出版社） 「ソナチネアルバム」（全音楽譜出版社）などの中から個人の進度に合わせた教本 「こどものうた200」（チャイルド本社）、「続こどものうた200」（チャイルド本社）						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
音楽Ⅱ	演習	1	選択	選択必修	選択	2年・前期	鎌倉亮太ほか
受講する上で の 注 意 事 項	ピアノの習熟度は就職等の進路に大きな影響を及ぼすこともあり、音楽Ⅰと同様、日々の練習を積み重ねて授業に臨むこと。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目 的 ・ 概 要	保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）として必要なピアノ奏法の弾き歌い・伴奏付け等音楽Ⅰをベースにして、継続性を保ち更なるステップアップを目指した科目である。 保育園や幼稚園など実践現場での活用を視野に入れ、実践力の養成と獲得を目的としている。それは必然的に、保育実習、教育実習に連なるものであり、就職の採用試験においても大きな力になるものである。 小グループで編成され、個々人のグレードに応じた個人レッスンの形態は、音楽Ⅰと同様である。						
到 達 目 標	① 個々人のグレードに対応しながら、ピアノ演奏のステップアップを図る。 ② 個々人のグレードに対応しながら、弾き歌いレパートリーの拡大を図る。 ③ 専門的な音楽理論（和声の基本）を学び実践力を修得する。 ④ 伴奏付けや簡単なアレンジの基本と実践力を修得する。 ⑤ ソナチネ練習曲以上のレベルの弾き歌い演奏ができる実践力を修得する。						
授業の進め方	ソナチネなどの教本、こどものうたの弾き歌いを併用しながら、個々の進度に合わせたレッスンを行う。						
時 間 外 学 修 学 修 上 の 助 言	1年次に履修した音楽Ⅰを基礎に、より実践的な内容となっている。また、実技要素が大変高い科目であるため、授業時間だけではなく、時間外の個人練習が重要である。						
授 業 計 画	第1回～第14回 弾き歌い表A～Dグループの中からの曲のレパートリーを広げるために、毎回個人の能力に応じて、2～3曲の宿題を課す。それと同時に、就職試験対策のために教則本の指導を引き続き、弾き歌いを行う。 音楽Ⅱでは、以下のことを身に付けさせることを目的とする。 ● 個々人のグレードに対応しながら 1) ピアノ演奏のステップアップ 2) 弾き歌いレパートリーの拡大 ● より専門的な音楽理論の獲得と実践力 1) 和声の基本についての理解と実践力 2) 伴奏付けや簡単なアレンジの基本と実践 第15回 まとめ ① 弾き歌い表のA～Dグループの中から各1曲ずつを提出し、当日指定された2曲を弾き歌い（暗譜の必要なし）する。 ② ソナチネ以上の教本よりひと楽章を演奏（暗譜の必要なし）する。						
評 価 方 法	定期試験（90%）、平常点（10%）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	「標準バイエルピアノ教則本」（全音楽譜出版社）、「ブルグミュラー 25の練習曲」（全音楽譜出版社） 「ソナチネアルバム」（全音楽譜出版社）などの中から個人の進度に合わせた教本 「こどものうた200」（チャイルド本社）、「続こどものうた200」（チャイルド本社）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
身体表現	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	渡 邊 望
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 運動のできる服装（ジャージなど）で受講すること。						
授 業 の 目的・概要	子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるためには、保育者自身がその楽しさを体感していることが必要である。このことから様々な表現遊びを実際に体験し、楽しさや喜びを自分自身で感じることで身体表現についての感性を養う。また、子どもの豊かな身体表現を引き出すには、保育者の態度や言葉かけなどによって大きく影響されることから子どもが楽しみながら、のびのびと表現できる環境の作り方を学ぶ。						
到 達 目 標	① 身体で表現する楽しさを味わい、表情を豊かに思いきり自己表現することができる。 ② 自己の感性を高め、全身を使って想像力豊かに表現できる。 ③ 子どもの豊かな身体表現を引き出すための場の構成を工夫することができる。						
授業の進め方	様々な表現遊びを通じて、自身の表現を高めていく。グループでの活動、発表となるので仲間と創意工夫しながら創り上げることで協調性や主体性を身に付け、積極的な態度を養う。						
時間外学修学修上の助言	思いきり表現できるように、少しずつ自分なりの表現の幅を広げていけるよう、積極的に取り組むこと。						
授 業 計 画	第 1 回 表現とは何か : ノンバーバルコミュニケーション 第 2 回 からだの解放 : からだほぐしの運動・わらべうたあそび 第 3 回 からだの動き : 多様な動きを経験する 第 4 回 リズム運動 : さくら・さくらんぼのリズムあそび 第 5 回 劇遊び : ミュージカル 第 6 回 発表 : グループ発表 第 7 回 表現力を高める ① : 4つのくずし 第 8 回 表現力を高める ② : 曲のイメージから感情を表現する 第 9 回 発表 : グループ発表 第10回 DVD鑑賞 : 発表作品のDVD鑑賞 第11回 制作 : 配役・担当決め 第12回 部分練習 : ステージを利用して練習 第13回 全体練習 : 照明確認 第14回 リハーサル : 各場面の修正と衣装合わせ 第15回 発表・まとめ : 全クラス合同発表会						
評 価 方 法	平常点（60％）平素の受講態度や課題への取り組みを加味する。制作発表（30％）、提出物など（10％）						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	授業開始時刻を厳守すること。						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
幼児造形Ⅰ	演習	1	選択	必修	必修	1年・前期	今 裕 子
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 ハサミ・カッター・ホチキス・のり（水溶性）・両面テープ（1cm幅）・セロテープ（1cm幅）は、道具箱にまとめ、毎回持参すること。準備や後片付けなども学習の一つである事を意識できるようにする。						
授 業 の 目的・概要	1 幼児期における造形表現の特徴を理解し、色や形やものを通して子どもとふれ合う保育者としての実践力を培う。 2 授業では、材料・用具の基本を理解し、保育環境の創作、および教材づくりに役立てるようにする。 3 「遊び」を通して子どもの造形感覚を豊かにし、人や事象（もの・こと）のつながりを深められるようなかわり、子どもの表現の支援を実践から学ぶ。						
到 達 目 標	① 造形素材の基本を理解し、実践できる。 ② 幼児の発育に応じた、適切な支援ができる。 ③ 幼児の造形活動が楽しいものであるための安全に十分配慮した環境を準備し、制作ができる。						
授業の進め方	・幼児造形の基本的な材料・用具の扱いや活かし方を理解し、発達段階に応じた実践ができるようにする。 ・制作活動と作品の交流を通した、コミュニケーションを大切にしたい学びの場とする。						
時間外学修 学修上の助言	自らの幼児期を振り返ってみたり、附属幼稚園や身近な子どもたちの遊びや造形作品に興味・関心を持ちながら子どもの思いに寄り添えるようにする。						
授 業 計 画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	オリエンテーション 子どもの表現から学ぶ 描く～基本① 描く～基本② 描く～基本③ 描く～基本④ 描く～基本⑤ 描く～基本⑥ つくってあそぶ① つくってあそぶ② たのしいおたより制作① たのしいおたより制作② 版押し遊び① 版押し遊び② 作品集の製本と交流	・幼児期の造形表現の特徴について ・幼児期の造形表現の特徴について ・クレヨンをつかって ・クレヨンをつかって ・水彩絵の具を使って ・水彩絵の具を使って ・クレヨンと水彩のコラボレーション ・クレヨンと水彩のコラボレーション ・身近な素材を活用してつくる ・身近な素材を活用してつくる ・保育がみえるおたより ・保育がみえるおたより ・様々な素材で版押し遊びの基本を学ぶ ・様々な素材で版押し遊びの基本を学ぶ ・作品集の製本完成と発表交流				
評 価 方 法	作品、レポート等（80%）、平常点（20%）平素の受講態度等を加味する。						
教 科 書	「保育をひらく造形表現」横英子著（萌文書林）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
幼児造形Ⅱ	演習	1	選択	選択必修	選択	1年・後期	今 裕 子
受講する上での注意事項	ハサミ・カッター・ホチキス・のり（水溶性）・両面テープ（1cm幅）・セロテープ（1cm幅）は、道具箱にまとめ、毎回持参すること。準備や後片付けなども学習の一つである事を意識できるようにする。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	1 教室内や行事の造形環境について理解と知識を深め、造形が子どもに果たす役割の重要性を学ぶ。 2 材料・用具等の基礎や基本を活かし、グループで造形環境を企画制作する。						
到 達 目 標	① 明るく楽しい環境づくりを意識して行える。 ② 園の行事等の造形スペースの展示方法を工夫し、適切な素材の選択・活用しながら造形遊びを支援できる。 ③ 幼児の造形活動が楽しいものであるために、安全に十分配慮した環境を準備し制作ができる。						
授業の進め方	よりよい造形環境が創りあげられるように学生同士の意見交流を大切にする。作品を活用して幼児が楽しめる発表交流を行う。						
時間外学修学修上の助言	自らの幼児期を振り返ってみたり、附属幼稚園や身近な子どもたちの遊びに興味・関心を持ちながら子どもの思いに寄り添えるようにする。						
授 業 計 画	第1回 メッセージカード作成① 第2回 メッセージカード作成② 第3回 お誕生日カード作成 第4回 しかけ・工夫のあるカード作成 第5回 ワークショップ① 第6回 ワークショップ② 第7回 つくる 手づくりおもちゃ						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1	選択	必修		1年・通年	阿 部 裕 子 ほか
受講する上での注意事項	将来、保育・福祉分野に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。						
授 業 の 目的・概要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学修内容、課題を明確化するとともに、事前・事後指導を通して、保育所及び施設の総合的な理解・対象児者の理解・保育者としての基礎力を高めていくことが目的である。 ●1年前期～1年後期（15回）：1年次10月の保育実習Ⅰ（保育所）に向けての事前・事後指導を行う。 ●1年後期～2年前期（15回）：2年次5月または7月の保育実習Ⅰ（施設）に向けての事前・事後指導を行う。						
到達目標	① 保育実習の意義、目的、内容を理解する。 ② 保育実習の方法を理解する。 ③ 保育実習の心構えを学び、実習課題を明確化する。						
授業の進め方	講義・実技・提出物等を中心に授業を展開する。 授業数を、保育所編（15回）・施設編（15回）に分け、事前・事後指導を行う。						
時間外学修学修上の助言	実技を身に付ける。						
授 業 計 画	【 保 育 所 編 】 第1回 実習全般に関するオリエンテーション 第2回 保育実習の概要と意義 第3回 保育実習の基礎（保育所の一日） 第4回 保育実習の基礎（発達区分） 第5回 実習課題の意義と明確化 第6回 指導計画案の書き方、日誌の書き方 第7回 実習調書の書き方・実習先の概要について 第8回 2年生の保育所実習体験から学ぶもの 第9回 実習の心構え・礼儀・マナーなど 第10回 実習オリエンテーションの受け方 実習巡回指導について 第11回 学外実習の振り返り 第12回～第14回 実習の経験を生かす：事例検討（Ⅰ～Ⅲ） 第15回 1年次実習の総括 2年次に向けての実習課題の明確化						
評価方法	平素の受講態度・実技・実習などを総合評価する。 平常点（20％）報告書（20％）実習日誌（20％）各実習施設からの報告書（40％）						
教科書	使用しない						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1	選択	必修		1年・後期/2年・前期	斉 藤 晋 ほか
受講する上での注意事項	将来、保育・福祉分野に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。						
授 業 の 目的・概要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学修内容、課題を明確化するとともに、事前・事後指導を通して、保育所及び施設の総合的な理解・対象児者の理解・保育者としての基礎力を高めていくことが目的である。 ●1年前期～1年後期（15回）：1年次10月の保育実習Ⅰ（保育所）に向けての事前・事後指導を行う。 ●1年後期～2年前期（15回）：2年次5月または7月の保育実習Ⅰ（施設）に向けての事前・事後指導を行う。						
到達目標	① 保育実習の意義、目的、内容を理解する。 ② 保育実習の方法を理解する。 ③ 保育実習の心構えを学び、実習課題を明確化する。						
授業の進め方	講義・実技・提出物等を中心に授業を展開する。 授業数を、保育所編（15回）・施設編（15回）に分け、事前・事後指導を行う。						
時間外学修学修上の助言	実技を身に付ける。						
授 業 計 画	【 施 設 編 】 第1回 施設実習がある理由 第2回 施設実習先の選択について 第3回 児童福祉施設の基礎知識と理解① 第4回 児童福祉施設の基礎知識と理解② 第5回 障がい系での施設実習① 第6回 障がい系での施設実習② 第7回 養護系での施設実習① 第8回 養護系での施設実習② 第9回 施設実習計画書の作成を学ぶ 第10回 求められる実習態度を学ぶ 第11回 実習施設事前訪問の留意事項を学ぶ 第12回 施設実習場面での様々な対応について学ぶ 第13回 実習終了後の児童福祉施設とのかかわり 第14回 施設実習の振り返り 第15回 施設実習で学んだことを共有する						
評 価 方 法	平素の受講態度・実技・実習などを総合評価する。 平常点（20％）報告書（20％）実習日誌（20％）各実習施設からの報告書（40％）						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	選択	必修		1年・後期	保 育 科 教 員
受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習Ⅰ（4単位）と、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない科目である。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。 実技（折り紙、ゲーム遊び、制作など）に関する参考書は、各自、参照し実習に備えること。						
授 業 の 目的・概要	児童福祉施設で日々営まれる保育活動に参加し、生活や遊びを通して、乳幼児、利用者への理解、児童福祉施設の機能や、そこで働く保育士の職務について学ぶことをねらいとし、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得する。						
到達目標	① 児童福祉施設の内容、機能などを実践現場での体験を通して理解する。 ② 既修の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 ③ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。						
授業の進め方	「保育実習Ⅰ」は、保育所における2週間、保育所以外の施設における2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	保育所実習 ・保育所の機能や役割について ・保育所の保育士の業務内容について ・保育所の子どものかかわり、子どもの発達など ・保育所の保育課程及び指導計画について ・家庭や地域社会に対する子育て支援の実態について						
評 価 方 法	各実習施設からの実績報告を基に（40%）、実習日誌など（30%）、報告書など（30%）。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	講義時に適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	選択	必修		2年・前期	保 育 科 教 員
受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習Ⅰ（4単位）と、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない科目である。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。 実技（折り紙、ゲーム遊び、制作など）に関する参考書は、各自、参照し実習に備えること。						
授 業 の 目的・概要	児童福祉施設で日々営まれる保育活動に参加し、生活や遊びを通して、乳幼児、利用者への理解、児童福祉施設の機能や、そこで働く保育士の職務について学ぶことをねらいとし、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得する。						
到達目標	① 児童福祉施設の内容、機能などを実践現場での体験を通して理解する。 ② 既修の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 ③ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。						
授業の進め方	「保育実習Ⅰ」は、保育所における2週間、保育所以外の施設における2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	施設実習 ・施設の機能や役割について ・施設の職員の業務内容について ・施設の利用者とのかかわりについて理解を深め、支援方法など ・家庭・地域・関連諸機関との連携の実態について						
評価方法	各実習施設からの実績報告を基に（40%）、実習日誌など（30%）、報告書など（30%）。						
教科書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	講義時に適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習指導Ⅱ	演習	1	選択	選択必修		2年・前期	阿 部 裕 子 ほか
受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習指導Ⅱ（1単位）又は保育実習指導Ⅲ（1単位）のいずれかを修得しなければならない科目である。将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。						
授 業 の 目的・概要	1年次の保育実習指導Ⅰを基盤とした2年次に行われる保育実習Ⅱの事前事後指導である。保育実習Ⅰからの成果と課題を受けて、より、質の高い実習を目指し、以下のことを目標としている。 実習の意義と目的を再確認しつつ、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科内容とその関連性を踏まえ保育実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。						
到 達 目 標	① 実習への心構え・気構えを準備し、マナーを身に付け、実習を行うことができる。 ② 実習の課題をしっかりと立てることができる。 ③ 子どもの発達課題を再学修し、五領域の学びから、指導案・日誌の「ねらい」を立てることができる。						
授業の進め方	実践する中から、学びを深める。 具体的な課題、研究活動、実技を通して、個々の実践力量を高める。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	第1回 保育実習による総合的な学び 第2回 ・子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 第3回 ・子どもの保育と保護者支援 第4回 保育実践力の育成 第5回 ・子どもの状態に応じた適切ななかかわり 第6回 ・保育の表現技術を生かした保育実践 第7回 保育計画と実践 第8回 ・保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 第9回 ・観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 第10回 保育者の専門性と職業倫理 第11回 事後指導における実習の総括と評価 第12回 ・実習の総括と自己評価 第13回 ・課題の明確化 第14回 自己課題について 第15回 まとめ						
評 価 方 法	平素の受講態度・実技・実習などを総合評価する。 平常点（25％）報告書（25％）実習日誌（25％）各実習施設からの報告書（25％）						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習指導Ⅲ	演習	1	選択	選択必修		2年・前期	斉 藤 晋
受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習指導Ⅲ（1単位）又は保育実習指導Ⅱ（1単位）のいずれかを修得しなければならない科目である。 将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。						
授 業 の 目的・概要	1年次の保育実習を基盤とした、2年次に行われる保育実習指導Ⅲは事前事後指導である。 保育実習Ⅲは児童福祉施設などでの実習であり、施設で実習を行う上での心構え、求められる姿勢、施設の専門知識の修得などを目標としている。						
到 達 目 標	① 実習の意義と目的を再確認しつつ、保育について総合的に学ぶ。 ② 実習や既習の教科内容とその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③ 保育の観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④ 保育士の専門性と職業倫理に倫理について理解する。 ⑤ 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、自己課題を明確にする。						
授業の進め方	授業はプロジェクターを使って行う。施設実習で起こり得る様々な事柄を事例を通し、どのように対応すべきなのか、学生と一緒に考えながら授業を進める。						
時間外学修学修上の助言	配付されたレジュメは、ファイリングするなど自己管理をすること。 施設実習前に、授業で各児童福祉施設に関する事前学修の指示を受けた内容は、自己学修すること。						
授 業 計 画	第1回 施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ① 第2回 施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ② 第3回 1度目の施設実習を振り返り2度目の自己課題を明確化する① 第4回 1度目の施設実習を振り返り2度目の自己課題を明確化する② 第5回 施設実習計画を作成する① 第6回 施設実習計画を作成する② 第7回 自立支援計画を作成する① 第8回 自立支援計画を作成する② 第9回 障がい系施設実習場面での様々な対応を考える① 第10回 障がい系施設実習場面での様々な対応を考える② 第11回 養護系施設実習場面での様々な対応を考える① 第12回 養護系施設実習場面での様々な対応を考える② 第13回 2度目の施設実習の振り返り自己評価をする 第14回 施設実習の振り返り 施設実習での出来事を共有する① 第15回 施設実習の振り返り 施設実習での出来事を共有する②						
評 価 方 法	各実習施設からの実績報告を基に（30%）、実習日誌など（30%）、報告書など（25%）、平常点（15%）						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	授業時に適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅱ	実習	2	選択	選択必修		2年・前期	保 育 科 教 員
受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない科目である。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。 実技（折り紙、ゲーム遊び、制作など）に関する参考書は各自参照し、実習に備えること。						
授 業 の 目的・概要	保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。						
到 達 目 標	① 子どもの個人差、発達の違いに応じた援助の方法を学び、修得する。 ② 保育の一部分、または一日の保育を担当する指導計画を立案し、実践する。 ③ 保育士に必要な資質について理解し、課題を実現させていく具体的方法を考える。						
授業の進め方	「保育実習Ⅱ」は保育所における2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	保育所実習（保育実習Ⅱ） ・保育所の機能や役割を学ぶ。 ・保育所の保育士の業務内容を学ぶ。 ・保育所の子どものかかわり、子どもの発達などを理解する。 ・保育所の保育課程及び指導計画について学ぶ。 ・家庭や地域社会に対する子育て支援の実態を学ぶ。						
評 価 方 法	各実習施設からの実績報告を基に（40%）、実習日誌（30%）、報告書（30%）。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実習Ⅲ	実習	2	選択	選択必修		2年・前期	保 育 科 教 員
受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない科目である。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれかの単位が不認定だった場合、両方の単位が不認定となる。 実技（折り紙、ゲーム遊び、制作など）に関する参考書は各自参照し、実習に備えること。						
授 業 の 目的・概要	保育実習Ⅲは、保育所以外の児童福祉施設等で行う学外実習である。保育士資格の取得を目指す者にとっては、学内で学んだことを実践の場で理解し体得していくための、相互に関連性を有する重要な科目である。 多くの先輩が、この学外実習に期待を抱き、それぞれの実習先へ赴き、終了時には専門職としての心構えと技能を持ち帰ってきた。それに倣い、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得させる。						
到達目標	① 施設の内容、機能などを実践現場での体験を通して理解する。 ② 既修の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 ③ 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。						
授業の進め方	「保育実習Ⅲ」は保育所以外の児童福祉施設等での2週間の学外実習である。						
時間外学修学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	施設実習 ・施設の機能や役割を学ぶ。 ・施設の職員の業務内容を学ぶ。 ・施設の利用者とのかかわりについて理解を深め、支援方法などを学ぶ。 ・家庭・地域・関連諸機関との連携の実態を学ぶ。						
評価方法	各実習施設からの実績報告を基に（40%）、実習日誌（30%）、報告書（30%）。						
教科書	使用しない						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員																																																			
保育・教職実践演習	演習	2	選択	必修	必修	2年・通年	保 育 科 教 員																																																			
受講する上での注意事項	将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。																																																									
授 業 の 目的・概要	本講義開講時期は、机上の講義や実習を踏まえ、保育者像がより現実化し、職業についての期待が膨らむとともに、それに対する不安、自己の課題が見えてきている時期である。そのため保育者養成の最終段階で開講される本科目を通して、これから保育者として生きるための心構えを作ることが期待される。 保育の中で起こる様々な課題を乗り越え保育者として成長していくために、保育所（園）、幼稚園などのそれぞれの実践の場で、保育者が直面することや保育者として求められること、議題解決をしていくための糸口などを提供し、学生自身がそれらについて考察することで、保育に積極的に向かう姿勢を身に付けることを目指す。																																																									
到達目標	保育者養成課程の最終段階で、これまで学んだことを振り返るとともに、これからの職場で求められる役割や資質についての情報を得ることにより、職業としての保育者を実践的に意識し、これまで学んできたことや自ら持つ力を保育者としての資質向上につなげていくことを目標とする。																																																									
授業の進め方	学生一人ひとりの自覚と主体的な取り組みによって展開される。そのため、講義、少人数による演習（グループ討議、ロールプレイング）、個別指導など様々な形で、学生一人ひとりが自らの課題に向き合えるような内容を実施する。																																																									
時間外学修学修上の助言	本講義は、2年間の保育の学びの集大成として開講されるものであり、グループ討議、個人研究など、能動的な活動が求められる。特に、個人研究では、時間外の研究が大変重要なものとなる。																																																									
授 業 計 画	<table><tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td><td>：保育・教職実践演習の意義、目的、内容</td></tr><tr><td>第2回</td><td>1年生の振り返り</td><td>：1年次の振り返りと履修カルテの記入</td></tr><tr><td>第3回～第4回</td><td>グループ討議、ロールプレイング</td><td>：保育者の指導力を高める①</td></tr><tr><td>第5回～第6回</td><td>グループ討議、ロールプレイング</td><td>：保育者の指導力を高める②</td></tr><tr><td>第7回～第8回</td><td>グループ討議、ロールプレイング</td><td>：保育所保育士の役割、職務内容、子どもに対する責任</td></tr><tr><td>第9回～第10回</td><td>グループ討議、ロールプレイング</td><td>：幼稚園教諭の役割、職務内容、子どもに対する責任</td></tr><tr><td>第11回～第12回</td><td>グループ討議、ロールプレイング</td><td>：子どもとの信頼関係</td></tr><tr><td>第13回～第14回</td><td>グループ討議、ロールプレイング</td><td>：社会性や対人関係能力</td></tr><tr><td>第15回～第16回</td><td>グループ討議</td><td>：学外実習から学んだことの交流</td></tr><tr><td>第17回～第18回</td><td>個別指導・自己課題の明確化</td><td>：実習評価をもとにした個人面談、自己課題の明確化</td></tr><tr><td>第19回</td><td>全体会</td><td>：1年生との実習交流会</td></tr><tr><td>第20回</td><td>個別研究</td><td>：オリエンテーション</td></tr><tr><td>第21回～第22回</td><td>個別研究</td><td>：論文、発表準備</td></tr><tr><td>第23回～第24回</td><td>個別研究</td><td>：論文、発表準備</td></tr><tr><td>第25回～第26回</td><td>個別研究</td><td>：論文、発表準備</td></tr><tr><td>第27回～第28回</td><td>個別研究</td><td>：論文、発表準備</td></tr><tr><td>第29回～第30回</td><td>個別研究</td><td>：発表報告会</td></tr></table>							第1回	オリエンテーション	：保育・教職実践演習の意義、目的、内容	第2回	1年生の振り返り	：1年次の振り返りと履修カルテの記入	第3回～第4回	グループ討議、ロールプレイング	：保育者の指導力を高める①	第5回～第6回	グループ討議、ロールプレイング	：保育者の指導力を高める②	第7回～第8回	グループ討議、ロールプレイング	：保育所保育士の役割、職務内容、子どもに対する責任	第9回～第10回	グループ討議、ロールプレイング	：幼稚園教諭の役割、職務内容、子どもに対する責任	第11回～第12回	グループ討議、ロールプレイング	：子どもとの信頼関係	第13回～第14回	グループ討議、ロールプレイング	：社会性や対人関係能力	第15回～第16回	グループ討議	：学外実習から学んだことの交流	第17回～第18回	個別指導・自己課題の明確化	：実習評価をもとにした個人面談、自己課題の明確化	第19回	全体会	：1年生との実習交流会	第20回	個別研究	：オリエンテーション	第21回～第22回	個別研究	：論文、発表準備	第23回～第24回	個別研究	：論文、発表準備	第25回～第26回	個別研究	：論文、発表準備	第27回～第28回	個別研究	：論文、発表準備	第29回～第30回	個別研究	：発表報告会
第1回	オリエンテーション	：保育・教職実践演習の意義、目的、内容																																																								
第2回	1年生の振り返り	：1年次の振り返りと履修カルテの記入																																																								
第3回～第4回	グループ討議、ロールプレイング	：保育者の指導力を高める①																																																								
第5回～第6回	グループ討議、ロールプレイング	：保育者の指導力を高める②																																																								
第7回～第8回	グループ討議、ロールプレイング	：保育所保育士の役割、職務内容、子どもに対する責任																																																								
第9回～第10回	グループ討議、ロールプレイング	：幼稚園教諭の役割、職務内容、子どもに対する責任																																																								
第11回～第12回	グループ討議、ロールプレイング	：子どもとの信頼関係																																																								
第13回～第14回	グループ討議、ロールプレイング	：社会性や対人関係能力																																																								
第15回～第16回	グループ討議	：学外実習から学んだことの交流																																																								
第17回～第18回	個別指導・自己課題の明確化	：実習評価をもとにした個人面談、自己課題の明確化																																																								
第19回	全体会	：1年生との実習交流会																																																								
第20回	個別研究	：オリエンテーション																																																								
第21回～第22回	個別研究	：論文、発表準備																																																								
第23回～第24回	個別研究	：論文、発表準備																																																								
第25回～第26回	個別研究	：論文、発表準備																																																								
第27回～第28回	個別研究	：論文、発表準備																																																								
第29回～第30回	個別研究	：発表報告会																																																								
評価方法	平常点：提出物、授業態度を含む（60%）、個別研究（40%）																																																									
教科書	使用しない																																																									
参 考 書 参 考 資 料 等	「保育士養成課程保育・教職実践演習」（光生館） 「保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力」（建帛社）																																																									
備 考	特に記載事項なし																																																									

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育方法論	講義	2	選択	選択必修	選択	1年・後期	中 村 章 子
受講する上での注意事項	将来、教職・児童福祉分野に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	幼児期の特性を踏まえて、子どもにとってふさわしい環境とは何かを考え、保育方法の工夫と理解を深めていく。 1 子どもの内面及び発達理解と保育方法 2 保育の展開、指導、援助、形態などの保育方法 3 子どもの興味、関心、意欲を引き出す環境づくり						
到達目標	① 子どもの生活・遊びを見る目を養う。 ② 指導計画案作成上の観点を理解する。 ③ 保育方法の基本を理解する。						
授業の進め方	教科書を通して、保育の方法についての理解を深める。様々な子どもの問題に関心を持ち、理解を深める。 事例研究を行う。						
時間外学修学修上の助言	各自、授業後に考察し、教育者としての知識を深めていくこと。						
授 業 計 画	第1回 保育方法の基本とは何か 第2回 乳幼児の理解と保育方法 I : 子どもの内面の理解と保育 第3回 乳幼児の理解と保育方法 II : 子どもの発達的な理解と保育 第4回 環境による保育とは 第5回 遊びによる総合指導とは I : 遊びとは何か 第6回 遊びによる総合指導とは II : 遊びを通しての総合的な指導 第7回 保育における個と集団とは 第8回 子どもにふさわしい園生活と保育者のかかわり 第9回 発達の時期に応じた保育のあり方 I : 入園当初の保育・慣れてきた時期の保育 第10回 発達の時期に応じた保育のあり方 II : 仲間と協力して生活する時期・卒園を前にした時期 第11回 保育の計画と実践 第12回 行事を生かした保育の展開 第13回 保育指導計画と保育指導計画案について 第14回 保育者の成長と保育実践の深まり 第15回 まとめ						
評価方法	定期試験（70%）、平常点（30%）平素の受講態度などを加味する（提出物など）。						
教科書	「保育方法・指導法の研究（新・保育講座6）」森上史朗・渡辺英則・大豆田啓友編（ミネルヴァ書房）						
参考書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	特に記載事項なし						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育相談	講義	2	選択	選択必修	必修	2年・後期	阿 部 裕 子 ほか
受講する上での注意事項	保育・教育相談を受ける対人援助の役割を担う職に就くことを念頭に置いて、受講態度そのものが学びであることを理解し、人の話を「聴く」という意識を強く持って臨むこと。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	近年の少子化、男女共同参画社会の時代にあって、保育所（園）、幼稚園に求められるもの、保育者の役割も子どもたちの育ちにかかわることだけでなく、家族関係の悩みなど「心の問題」に関した保護者からの相談に応じざるを得ない状況へと変化してきている。 保育現場での実際（相談内容）を知り、保育・教育相談に応じる姿勢や考え方を学ぶことを目的とする。						
到 達 目 標	① 保育相談の基本原理・意義について理解する。 ② カウンセリングの理論及び技法について理解する。 ③ 保育者としてカウンセリングを行う際の基本的姿勢について理解する。 ④ 保育現場における保育相談の技法及びその活用の仕方について理解する。						
授業の進め方	事例を中心に授業を進め、演習課題を通して理解し、考え方を深めていく。						
時間外学修 学修上の助言	「聴く」「話す」ということが相談を受ける際の中心技術となるが、「読む」「書く」ということがその土台となることを理解し、読み取る力、書く力を付ける。						
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション 第2回 保育・幼児教育とは何か 第3回 カウンセリングの理論と技法 Ⅰ 第4回 カウンセリングの理論と技法 Ⅱ 第5回 保育相談の基礎 :「傾聴・受容・共感」 第6回 保育相談の技法 Ⅰ :「言語コミュニケーション」 第7回 保育相談の技法 Ⅱ :「非言語コミュニケーション」 第8回 乳幼児の発達と保育相談 第9回 保護者の理解と対応の仕方 :「子育て支援の視点から」 第10回 保護者の理解と対応の仕方 :「保護者の要望・抗議とどう向き合うか」 第11回 気になる子どもとその保護者への対応 第12回 発達障がいのみられる子どもとその保護者への対応 第13回 保育所（園）・地域における専門家との連携 第14回 保育者の専門性と相談活動 第15回 援助者自身のケアとメンタルヘルス						
評 価 方 法	定期試験（60%）、平常点（40%）演習課題・受講態度などを総合評価する。						
教 科 書	「子どもの理解と保育・教育相談」小田豊・秋田喜代美編（みらい）						
参 考 書 参 考 資 料 等	必要に応じてプリント配付 「保育所保育指針」厚生労働省編（フレーベル館） 「幼稚園教育要領」文部科学省編（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省編（フレーベル館）						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育社会学	講義	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	高 橋 均
受講する上での注意事項	将来、子どもの教育・支援に携わる職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 授業中の私語は、良好な環境で教育を受ける権利を侵害するものであるため厳禁とする。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	保育・幼児教育という営みは、子どもの育ちに深く関わり、社会生活のあり方を方向付け、社会の存続（維持・再生産）と変容を左右する。それは、私たちが生きるこの社会を創っていく土台となるものでもある。保育者を志す者にとって保育・幼児教育という営みや子育ての課題を深く理解することは、子どものよりよい育ちを支えることはもちろんのこと、よりよい社会を創出するためにも不可欠な課題であるといえよう。 本講義では、社会学的な視点から、家族・仲間集団・保育および幼児教育制度・地域社会など、子どもの育ちに関わるシステムを取り上げ、その機能・役割について考察する。また、保育・幼児教育に関わる身近な問題を取り上げ、子どもの育ちと社会的環境が相互に関連し合うという認識を養い、具体的な課題解決に向けて、自分なりの考察を展開できるようにする。						
到 達 目 標	① 保育社会学とは、何をどのような方法で明らかにする学問なのか、また、どのような性格を持つ学問なのかを理解する。 ② 社会学的な視点から保育・幼児教育という営みを捉え、分析・考察する能力を身に付ける。 ③ 社会学において用いられる概念や理論について理解を深め、保育・幼児教育をめぐる現状と課題について分析・考察を展開できる。						
授業の進め方	講義形式が中心となるが、学修内容の確認・定着を図るため、適宜、小レポートやピア・レビューを課す。講義内容理解の手助けとなるよう、各回のテーマに即したプリントを配付する。						
時間外学修学修上の助言	講義を通じて関心を抱いたテーマに関連した文献にあたるなどして、受講者各自で発展的な学修をすること。						
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 保育・幼児教育とは何か						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
児童文学	講義	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	霜 鳥 かおり
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。教科書を使って学生による絵本の読み聞かせを行う予定である。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	児童文学の対象範囲は広く、幼児から大人まで児童文学の持つ温かさや正義感、人間信頼を求めて、多くの読者を惹きつけている。 本講義は、アンデルセンやグリムなどの古典から、現代のファンタジーまでの児童文学を絵本を中心テキストとして幅広く取り上げる。 また、ジャンルごとの絵本を鑑賞、理解していく。						
到 達 目 標	児童文学、絵本の理解を深め、次世代に児童文学・絵本の魅力を伝えることができる。						
授業の進め方	児童文学の歴史や絵本のジャンルに沿って授業を進めるが、毎回、グループによる絵本の紹介を取り入れる。また、児童文学の理解を助けるために、適宜、ビデオ、DVDを取り入れる。						
時間外学修学修上の助言	授業で紹介する児童文学や絵本を積極的に読んでほしい。特に学校の図書館を積極的に活用すること。						
授 業 計 画	第1回 児童文学とは何か 資料の探し方 第2回 イソップ・グリム・アンデルセン (1) 第3回 イソップ・グリム・アンデルセン (2) 第4回 イソップ・グリム・アンデルセン (3) 第5回 イソップ・グリム・アンデルセン (4) 第6回 宮沢賢治 (1) 第7回 宮沢賢治 (2) 新美南吉 第8回 赤ちゃん絵本 第9回 昔話絵本 (1) 第10回 昔話絵本 (2) 第11回 ことばの絵本 第12回 認識絵本 第13回 物語絵本 (1) 第14回 物語絵本 (2) 第15回 物語絵本 (3) まとめ						
評 価 方 法	定期試験 (70%)、平常点 (30%) 平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	適宜プリントを配付する						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
音楽総合表現	演習	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	宮 越 聡 美
受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、楽しみながらも規律を守り、積極的に学ぶ意識を持って受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	豊かな音楽表現のためには、幅広い音楽の素養が必要である。これまでに身に付けてきた演奏技術や伴奏法をより確かなものとするために、基礎的な音楽理論やソルフェージュを学ぶ。また、さまざまな音楽に触れ、背景を知ることによって保育者としての音楽的教養を身に付ける。 音楽表現の楽しさを子どもに伝えるには、保育者自身がそれを身をもって体験し、その楽しさや魅力を実感することが重要である。わらべうたや唱歌などの子どもの歌を修得し、子どもの遊びに即した歌遊び、リズム遊びとその発展例を実践することで、音楽の楽しさを実感する。さらに、平易な素材から簡単な編曲も取り入れ、幅広い音楽表現のあり方を考えていく。						
到 達 目 標	① 基礎的な音楽理論を理解し、コードネームによる伴奏ができる。 ② わらべうた、唱歌などの子どもの歌を修得し、歌あそびやリズムあそびなど、音楽を使った遊びのレパートリーを広げる。 ③ 基本的なリズム演奏から応用としてのリズムアンサンブルを学ぶ。また、リズム楽器を使用した簡易的な編曲と、それをを用いた合奏指導を実践する。						
授業の進め方	必要に応じプリントを配付しながら進めていく。						
時間外学修学修上の助言	個人又はグループによる実技の実践と発表を毎時間行うので、積極的に授業に参加し、各自での練習・復習を怠らないこと。						
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
図画工作	演習	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	今 裕 子
受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 ハサミ、カッター、ホチキス、木工ボンド、両面テープ（1cm 幅）セロテープ（1cm 幅）は道具箱にまとめ毎時間持参すること。 準備や後片付けなども学習の一つであることを意識できるようにする。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授 業 の 目的・概要	本講義では、幼児の表現、造形活動に必要な知識を学び、幼児一人ひとりの創造力を支える力を養うことを目的とする。また、幼児のための造形環境を保育者としての立場から創造することをテーマに制作を行い、作品の展示方法を研究する。						
到達目標	① 季節や行事等、目的に即した造形制作を通じて幼児期の子どもを主体とした造形環境の必要性を理解し、そのために必要な知識・技能を学ぶ。 ② 幼児期の発達を理解すると共に低年齢児との描画・造形活動への取り組み方を学ぶ。						
授業の進め方	課題に対して資料・プリントを参考に企画シートを作成し、制作する。						
時間外学修学修上の助言	色々な造形材を扱うことで素材への知識や関心が高まることを期待している。						
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション : 子どもと造形表現 第 2 回 伝える : 楽しい園だよりⅡ 伝える工夫 第 3 回 伝える : 楽しい園だよりⅡ 伝える工夫 第 4 回 知らせる : 立体表示による伝言 第 5 回 知らせる : 立体表示による伝言 第 6 回 つくる : ライトアップした装飾の工夫 第 7 回 つくる : ライトアップした装飾の工夫 第 8 回 つくる : ライトアップした装飾の工夫交流 第 9 回 かざる : 図形を活用した装飾の工夫 第10回 かざる : 図形を活用した装飾の工夫 第11回 手作り絵本 : オリジナル絵本の作製 第12回 手作り絵本 : オリジナル絵本の作製 第13回 手作り絵本 : オリジナル絵本の作製 第14回 おめでとうシアター : 卒園を祝う環境構成 第15回 おめでとうシアター : 卒園を祝う環境構成						
評 価 方 法	作品・レポート等（80%）、平常点（20%）平素の受講態度などを加味する。						
教 科 書	「保育をひらく造形表現」槇英子著（萌文書林）						
参 考 書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
保育実践研究	演習	2	選択	選択必修	選択	2年・前期	佐々木 真 吾
受講する上での注意事項	将来、保育関係又は教職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、保育相談、保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位を修得すること。						
授業の目的・概要	保育者として保育現場で実践する上での、具体的な指導法を総合的に深める。 保育を展開していく上で指導計画は、必要不可欠であり大きな意味を持つが、常に計画通りに進むわけではない。子どもの状態に合わせた柔軟な考え方、臨機応変に対応して行ける実践力を養成する。 指導計画の立案と模擬実践を中心に授業を進める。実際に子どもたちの前に立っているつもりで下準備をしっかり整え、意欲的に取り組むことが望まれる。						
到達目標	① 指導計画の意味を理解し、明確なねらいの立て方、適切な記載表現などを身に付ける。 ② 実践を検討、評価することにより、創意工夫、柔軟な考え方を身に付ける。 ③ 保育現場で活用できる身体的な技法、実践力を身に付ける。						
授業の進め方	個人ごとに指導計画の立案と模擬実践を行う。その後、クラス全体で実践の振り返りを行う。						
時間外学修 学修上の助言	紙面上、頭の中だけの計画で実践に臨むのではなく、事前練習をしておくこと。（絵本を声を出して読む、制作物を作ってみる、動かしてみる、時間配分のためのシュミレーション等）						
授業計画	第1回 オリエンテーション／指導案の書き方 第2回～第15回 部分実習の模擬実践						
評価方法	模擬実践（50%）、指導計画案（提出状況と内容）（30%）、平常点（20%）						
教科書	使用しない						
参考書 参考資料等	「保育所保育指針」厚生労働省編（フレーベル館） 「幼稚園教育要領」文部科学省編（フレーベル館）						
備考	提出物の期限厳守						

授 業 科 目 名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担 当 教 員
教育実習	実習	5	選択	選択	必修	1年・前期/2年・前期	鎌倉亮太 佐々木真吾
受講する上での注意事項	将来、教職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。						
授 業 の 目的・概要	本科目は、実習（幼稚園）と実習指導の2つの柱から構成される。 実習指導では、実習生が実習を充実したものにできるように実習前と実習後にガイダンスを行う。 実習前には、幼稚園の機能、保育者の役割、幼児教育という営み、指導計画（指導案）の作成方法など、教育実習において必須となる事項や実習に向けての実習生の心構えなどについての知識を得る。 実習後には実習の徹底的な振り返りを行い、幼稚園の機能や保育者の役割、指導法などについて更なる理解を深める。 実習（幼稚園）では、学内で学んだ知識や技術を実践を通じて理解し、体得していくことを目指す。 教育実習は、幼稚園教諭としての基礎的な知識を定着し能力を高めていく重要な機会となる。 これらの実習および実習指導は、1、2年次を通じて行う。1年次には附属幼稚園での観察実習とそれにかかわる事前・事後指導を行う。2年次には、学外での実習とそれにかかわる事前・事後指導を行う。両年次の実習と実習指導を修得して、教育実習の単位認定となる。						
到達目標	① 幼稚園の機能・役割・組織・仕事の実践について理解する。 ② 幼稚園の機能、保育者の役割、幼児教育という営み、指導計画（指導案）の作成方法などを学ぶ。 ③ 教育実習において必須となる事項や実習に向けての実習生の心構えなどについて理解を深める。 ④ 指導法の実践について理解を深める。 ⑤ 部分実習・完全実習を指導計画案を基にして実践し、理解する。 ⑥ 子どもへの対応、発達過程を理解する。						
授業の進め方	1年生：附属幼稚園実習の事前指導、4日間の観察実習＋1日間の行事実習 2年生：学外幼稚園実習の事前・事後指導、3週間の学外実習 実習を通して、幼稚園教育とは何か、幼稚園の役割などを理解する。日誌を日々書く中で、記録の重要性を理解し、子どもを観察する力を養う。						
時間外学修学修上の助言	幼稚園教諭としての基礎的な知識を定着し能力が高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。						
授 業 計 画	【1年生】 第1回 附属幼稚園実習事前指導① : 教育実習の概要、目的と意義 第2回 附属幼稚園実習事前指導② : 附属幼稚園とは（教育目標、1日の流れ、行事等） 第3回 附属幼稚園実習事前指導③ : 実習に臨む態度、身だしなみ、実技指導 第4回 附属幼稚園実習事前指導④ : 附属幼稚園実習オリエンテーション ●4日間の附属幼稚園実習・1日間の附属幼稚園行事実習 【2年生】 第5回 学外教育実習の意義と概要 第6回 幼児の理解① : 3、4歳児の発達過程について 第7回 幼児の理解② : 5歳児の発達過程について 第8回 幼稚園実習の実際① : 実習課題の立て方 第9回 幼稚園実習の実際② : 指導案、日誌作成について1 第10回 幼稚園実習の実際③ : 指導案、日誌作成について2 第11回 幼稚園実習へ向けて① : 先輩の体験談を聞く 第12回 幼稚園実習へ向けて② : 附属幼稚園の先生より幼稚園教諭の実際を知る 第13回 直前指導 : 教育実習に向けての確認事項 ●3週間の学外幼稚園実習 第14回 教育実習の振り返り : 実習報告書の作成 第15回 まとめ : 教育実習の振り返り、1年間のまとめの記入						
評 価 方 法	附属幼稚園実習（10%）、学外幼稚園評価（30%）、学外幼稚園日誌（30%）、学外幼稚園報告書（30%）。						
教 科 書	使用しない						
参 考 書 参考資料等	適宜紹介する。						
備 考	提出物の期限厳守						